

シラバス集

マロニエ医療福祉専門学校

看護学科 1 年

2025 年度

シラバスの見方

授業科目名	①		実務経験講師	③
担当教員名	②		実務経験	④
開講年度	⑤ 年度	学 期	⑦	
年 次	⑥ 年次	授業回数	⑧ 回	
単 位 数	単位	単位時間数	時間	
授業科目の概要	⑨			
授業科目の到達目標	⑩			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1			
2			
3			
4			
5			
6	⑪		
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

使用テキスト	⑫
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	
成績評価の方法	
その他 受講生への要望等	

① 授業科目名

② 担当教員名

担当する主な講師の氏名です。氏名の前の番号は「実務経験（④）」に対応しています。

③ 実務経験講師

講師に担当する科目に関する実務経験がある場合、「○」がついています。

実務経験とは・・・資格をもっているだけではなく、実際の施設等で資格を活かして働いた経験があるということ。

※一部を除き、違う学校で同様の科目を教えている等の教員経験は実務経験に含まれません。

④実務経験

担当講師の実務経験内容を簡単に記してあります。

⑤開講年度

⑥年次

授業を受ける学年です。

⑦学期

前期・・・4月～9月

後期・・・10月～3月

通年（全期）・・・1年間を通して、もしくは前期～後期にかかるどこかの期間で

⑧授業回数

⑨授業科目の概要

授業内容の大まかな説明です。

⑩授業科目の到達目標

授業が修了した時に到達すべき学修の目標です。

⑪授業スケジュールと内容

内容・・・1回の授業がどのような内容で構成されているか

授業方法・・・講義、演習、実習など

課題/小テスト・・・その授業の回に課題や小テストが課されている場合は記載されます。予習の内容が書かれている場合もあります。

⑫使用テキスト

授業で使用するテキストの情報です。プリント等オリジナル教材を使用する場合もあります。

シラバスの使い方

シラバス（授業計画書）は、各授業科目の概要のことです。

あらかじめ学生の皆さんに授業の進め方、学習内容、学習のねらいや評価方法を提示することによって、授業の流れをよく理解してもらい、より計画的に、主体的に、効果的に学習できることを目的に作成したものです。

シラバスを読めば、科目担当教員が皆さんにどのようなことを修得してほしいのか、また、何をどこまで、どのような方法で授業するのかを事前に知ることができます。専門学校での授業は、予習➡授業➡復習のサイクルを確立することが基本であり、最も大切です。シラバスを有効に活用して、自分に合った学習のパターンや方法を見つけ、学習に取り組んでください。

【授業を受ける前に】

1. 科目の到達目標には、その科目を勉強することによって皆さんに身につけてほしい目標が記載されています。この科目で身につけるべきことは何かを確認しましょう。
2. 授業の概要・内容・進め方を確認し、自分が何を学ぶのかイメージした上で、計画を立てて学習に臨みましょう。
3. 各回のキーワードはその授業で覚えてほしい重要なもの（将来的には国家試験にも関連する事柄も含む）として示してあります。各回の授業で自分が理解できたかどうかを振り返る上でのポイントとなります。
4. 使用テキスト・参考書については何を使用するのか事前に確認し、準備しましょう。
5. 「この科目の基礎となる科目」は、この科目を学ぶ上でベースとなる科目です。また、「この科目を基礎とした科目」はこの科目で学んだことを用いて発展させることを目指す科目です。科目同士のつながりを意識しながら、効果的に学びましょう。
6. 「成績評価の方法」にはこの科目の評価に用いる試験や課題などの情報を示してあります。課題レポート・出席状況・小テストなども含まれる科目がありますので、よく確認しましょう。
7. 提出物のある科目については、各学科のルールを確認の上、締め切りを守りましょう。専門職を目指す皆さんには、時間管理や、ルールを守ることも基本的な力として身につけてほしいと考えています。

シラバスの大まかな使い方は以上ですが、わからないことがあれば、遠慮なく教員に聞いてください。

別表Ⅰ－6

看護学科 授業科目一覧

区分	教育内容	授業科目名	指定規則	学校指定		1年次		2年次		3年次	
			単位数	単位数	時間数	単位	時間	単位	時間	単位	時間
基礎分野	科学的思考の基盤	論理科学	14	1	30	1	30				
		情報科学		1	15	1	15				
		生活科学		1	15	1	15				
	人間と生活・社会の理解	教育学		1	15			1	15		
		倫理学		1	15	1	15				
		社会学		1	15	1	15				
		心理学		1	30	1	30				
		人間関係論		1	30	1	30				
		カウンセリング論		1	15			1	15		
		家族論		1	15			1	15		
		地域論		1	15	1	15				
		英語		1	30	1	30				
		運動と健康Ⅰ		1	30	1	30				
		運動と健康Ⅱ		1	15			1	15		
基礎分野・小計			14	14	285	10	225	4	60	0	0
専門基礎分野	人体の構造と機能・ 疾病の成り立ちと回復の促進	生化栄養学	16	1	30	1	30				
		人体の構造と機能総論		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅰ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅱ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅲ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅳ		1	30	1	30				
		人体の構造と機能Ⅴ		1	30	1	30				
		疾病治療総論		1	30	1	30				
		微生物学と感染症		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅰ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅱ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅲ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅳ		1	30	1	30				
		疾病治療論Ⅴ		1	30			1	30		
		疾病治療論Ⅵ		1	30			1	30		
	健康支援と 社会保障制度	臨床薬理学	6	1	30	1	30				
		総合医療論		1	15	1	15				
		公衆衛生学		1	15			1	15		
		社会福祉論Ⅰ		1	15	1	15				
		社会福祉論Ⅱ		1	15			1	15		
		関係法		1	15					1	15
専門基礎分野・小計			22	22	570	16	450	5	105	1	15
専門分野	基礎看護学	基礎看護学概論	11	1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅰ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅱ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅲ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅳ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅴ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅵ		1	30	1	30				
		基礎看護学方法論Ⅶ		1	30	1	30				
		看護過程		1	30			1	30		
		看護研究		1	30					1	30
	地域・在宅看護論	臨床看護総論	6	1	15	1	15				
		基礎看護学実習Ⅰ		1	45	1	45				
		基礎看護学実習Ⅱ		2	90			2	90		
		地域・在宅看護学概論		1	30	1	30				
		地域・在宅看護方法論Ⅰ		1	15			1	15		
		地域・在宅看護方法論Ⅱ		1	15			1	15		
	成人看護学	地域・在宅看護方法論Ⅲ	6	1	15			1	15		
		地域・在宅看護方法論Ⅳ		1	30			1	30		
		地域・在宅看護方法論Ⅴ		1	30			1	30		
		地域・在宅看護論実習		2	90					2	90
		成人看護学概論	6	1	30	1	30				
		成人看護学方法論Ⅰ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅱ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅳ		1	30			1	30		
		成人看護学方法論Ⅴ		1	30			1	30		
	老年看護学	成人看護学実習Ⅰ	2	2	90			2	90		
		成人看護学実習Ⅱ		2	90					2	90
		成人看護学実習Ⅲ		2	90					2	90
		老年看護学概論	4	1	30	1	30				
		老年看護学方法論Ⅰ		1	30			1	30		
		老年看護学方法論Ⅱ		1	15			1	15		
	老年看護学方法論Ⅲ	1		30			1	30			
	小児看護学	老年看護学実習Ⅰ	2	2	90			2	90		
		老年看護学実習Ⅱ		2	90					2	90
		小児看護学概論	4	1	30	1	30				
		小児看護学方法論Ⅰ		1	15			1	15		
		小児看護学方法論Ⅱ		1	30			1	30		
		小児看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
	小児看護学実習	2		90					2	90	
	母性看護学	母性看護学概論	4	1	30	1	30				
		母性看護学方法論Ⅰ		1	15			1	15		
		母性看護学方法論Ⅱ		1	30			1	30		
		母性看護学方法論Ⅲ		1	30			1	30		
		母性看護学実習		2	90					2	90
精神看護学		精神看護学概論	4	1	30	1	30				
	精神看護学方法論Ⅰ	1		15			1	15			
	精神看護学方法論Ⅱ	1		30			1	30			
	精神看護学方法論Ⅲ	1		30			1	30			
	精神看護学実習	2		90					2	90	
	看護の統合と実践	看護の統合と実践Ⅰ	4	1	30			1	30		
看護の統合と実践Ⅱ		1		30			1	30			
看護の統合と実践Ⅲ		1		15					1	15	
看護の統合と実践Ⅳ		1		30					1	30	
看護の統合と実践実習		2		90					2	90	
専門分野 小計			66	66	2,190	16	480	31	915	19	795
合 計			102	102	3,045	42	1,155	40	1,080	20	810

授業科目名	論理学		実務経験講師	○
担当教員名	金久保 浩		実務経験	介護福祉士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	課題文を読んだり課題を考えたりすることを通して物事を論理的に思考し、客観的な物の見方、考え方、表現力を習得する。			
授業科目の到達目標	1. 自らの考えを論理的に表現できる 2. 文章を書く上での基本的な知識を実践に生かすことができる 3. 全体の構成を考えながら文章を書くことができる 4. 漢字や語句の知識を正しく身につけ、文章に反映することができる 5. 課題文を的確に読み取ることができる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	論理・論証とは何か？ 教科書 p2～14 第 1 章	講義	
2	接続表現一文と文の関係を明確にする 教科書 p15～34 第 2 章	講義	
3	表現・表記上の知識	講義	漢字の読み書き1
4	論理的に考える方法―帰納的論証① 教科書 p35～42 第 3 章前半	講義	漢字の読み書き2
5	論理的に考える方法―帰納的論証② 教科書 p43～62 第 3 章後半	講義	漢字の読み書き3
6	作文練習(準備)	実践	
7	作文練習(実践 600 字程度)	実践	
8	論理的に書く―一文一義とパラグラフ構造の理解 教科書 p90～120 第 5 章抜粋	講義	漢字の読み書き 4
9	小テスト(漢字テスト含む)※	小テスト	
10	論理的に読む(文章読解演習) 教科書 p124～148 第 6 章抜粋	講義	
11	小テスト返却・解説、作文準備	講義	
12	作文実践(600 字～700 字)※	実践	
13	第 12 回の作文返却・解説 説得力があり分かりやすい文章を書くために(例文分析)	講義	
14	試験準備(読解) 試験に出題する文章の読解・解説	講義	

15	終講試験	試験	作文
----	------	----	----

使用テキスト	看護学生が身につけたい 論理的に書く・読むスキル 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	基礎分野Ⅰ 基礎分野Ⅱ 統合分野
成績評価の方法	小テストおよび作文実践(シラバス中の※印)、終講試験 (配点などは授業の中で説明する)
その他 受講生への要望等	・ 文章の添削を受けてそこから書き方を学ぶ形式なので、提出物は必ず提出すること ・ 実践を通して 800 字程度の文章を書けることを目標とするので、達成できるよう努力すること

授業科目名	情報科学		実務経験講師	○
担当教員名	金久保 浩		実務経験	介護福祉士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	7回	
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間	
授業科目の概要	情報に関する基本的な事柄を理解し、患者に関する情報の種類・重要性・取り扱い方法について理解することを目的とした科目になる。具体的には、パソコンの基本操作を修め、情報機器を活用した論文作成やプレゼンテーションを行う能力を身に着ける。 さらに、看護に関する文献検索を行えるよう演習により学習する。			
授業科目の到達目標	1. ワード、エクセル、パワーポイント、インターネット、メールの使用手法、基本操作法を学習し、プレゼンテーションやドキュメンテーションの作成に活用できる。 2. 医療情報の種類、取り扱い、留意点について理解できる。 3. 看護に関する文献検索の方法を理解し、検索できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1		看護における情報、情報社会と看護 医療における情報の記録、病院情報システムと記録の 仕 方、地域医療福祉のネットワークと情報システム 医療・看護における個人情報、情報の利用の仕方	講義	
2		情報倫理とは 診療情報の開示、レセプトの開示 情報の概念、情報の特性、情報の認知と意思決定、情報の 伝達とコミュニケーション、情報社会で求められること	講義	
3		コンピューターに関する基礎知識 インターネットに関する知識と注意点	講義 演習	
4		ワープロソフトの起動、日本語等の入力 日本語入力、文書の移動・コピー 文書の作成	演習	
5		//	演習	
6		グラフの作成など	演習	
7		//	演習	
8		まとめ問題、終講試験	講義 演習	

使用テキスト	系統看護学講座 看護情報学 医学書院
参考書・資料 等	

この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	専門基礎分野 専門分野 統合分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	生活科学		実務経験講師	-
担当教員名	仲田郁子		実務経験	-
開講年度	2025 度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	7回	
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間	
授業科目の概要	看護の対象者は全年齢の生活者であり、対象者を理解するためには生活の概念、生活の定義、生活のありさまを理解し、援助することが必要になってくる。 1年次に学習することで対象者を生活者として深く理解することにつながり、健康促進や疾病からの回復促進、地域への復帰促進へとつなげることができる。			
授業科目の到達目標	1. 生活者としての対象者を理解することができる。 2. 生活科学の定義、変遷から対象者の生活背景を理解することができる。 3. 生活と健康のつながりを理解することができる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	生活科学の概念、歴史、家政学から生活科学への流れ 科学発展の意味、現代科学とその特性、生活科学の視座 生活科学と専門職	講義	
2	現代社会における発達上の諸問題、家族をめぐる発達上の諸問題、生活の枠組み、家庭生活の維持・管理	講義	
3	機械化と省力化、情報化社会とコミュニケーション 家庭生活と労働、ハンディキャップと生活機器	講義	
4	自然環境と暮らし、暮らしと環境問題、人の生理機能 生活様式の変化、衣生活の様式、食の生活様式、住の生活様式	講義	
5	社会構造、生活様式の変化と消費形態の変化、衣生活と消費、食生活と消費、暮らしと消費者教育 消費者保護と法律、食生活の安全と法律、住生活の安全と法律、訪問取引と法律	講義	
6	健康な生活、食物と栄養、食生活の変化と健康上の問題 健康とスポーツ 住宅の公共性、住まいと安全な暮らし、住宅の水準と暮らし、ライフスタイル、ライフステージと住まい	講義	
7	人類生活史、暮らしと階級文化、21世紀の生活像、生活文化の継承と創造 助け合いの地域ネットワーク、育児不安と育児ネットワーク 外国における生活問題への取り組み	講義	

	持続可能な人類発展のためにできること	講義	
8	終講試験		

使用テキスト	
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	社会学
この授業科目から発展する主な科目	専門基礎分野、専門分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 100点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	倫理学		実務経験講師	-
担当教員名	渡辺 忠		実務経験	-
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	8 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	・看護専門職を目指す者として、また、一個の人間として、生命尊厳・人格尊重の精神にもとづいた人間としての考え方・生き方を学ぶ。 ・生命倫理学の主要な諸問題に対して、歴史的経緯や事実、様々な観点からの考え方を学び、自ら考え倫理に基づいて行動が取れる能力を育成する。 ・現代医療にとっての生命倫理的思考の重要性を理解する。			
授業科目の到達目標	1. 医療における倫理的問題・倫理的な意思決定について、十分な思慮に基づいた判断を下すことができる。 2. 様々な倫理思想について学び、生命倫理・医療倫理の具体的な諸問題と争点を理解して、医療における倫理とはどのようなものか説明することができる。 3. 医療の進歩に伴い変化する医療内容を倫理的な観点から捉え、生命倫理の主題となる領域について、自ら問題意識をもつことができる。 4. 生命倫理の諸説の公正な検討を通して、倫理的価値観を論理的・理性的に表現することができる			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	・初回オリエンテーション：倫理とは何か、生命倫理とはどのようなものか。 ・終末期医療Ⅰ：終末期医療におけるリビングウィルの考察を通して医療における自己決定について考える。 ・この回のキーワード：医療倫理の四原則、自己決定とパターンリズム、リスボン宣言、インフォームド・コンセント、事前指示、リビングウィル、アドヴァンス・ケア・プランニング、治療拒否、病名病態告知	ビデオ教材視聴、 講義	ビデオ教材を視聴して自分の考えを確認する。 講義内容を資料で理解する。
2	・終末期医療Ⅱ：認知症高齢者の医療の考察を通して、終末期や延命治療の在り方について考える。 ・この回のキーワード：終末期、延命治療、QOL、治療停止、緩和医療、鎮静、代理意思決定	ビデオ教材視聴、 講義	ビデオ教材を視聴して自分の考えを確認する。 講義内容を資料で理解する。
3	・終末期医療Ⅲ：安楽死の倫理問題を、各国制度、歴史的経緯、生命倫理の諸説を概観して理解する。 ・この回のキーワード：積極的/消極的・自発的/非自発的/反自発的・直接的/間接的安楽死、医師による自殺幇助、アメリカ/オランダ/スイス等の事情、東海大学病院事件横浜地裁判決、死の自己決定、死の悪	ビデオ教材視聴、 講義	ビデオ教材を視聴して自分の考えを確認する。 講義内容を資料で理解する。

4	・生殖補助医療Ⅰ：生殖医療の倫理問題を非配偶者間生殖医療の事例を通して考える。 ・今回のキーワード：生殖技術、生殖補助医療、非配偶者間人工授精(AID)、子どもの出自を知る権利、家族とは何か、医療における情報と守秘義務	ビデオ教材視聴、講義	ビデオ教材を視聴して自分の考えを確認する。 講義内容を資料で理解する。
5	・生殖補助医療Ⅱ：不妊治療としての非配偶者間配偶子提供・胚提供・代理懐胎の検討を通して、子供をもつことの倫理的哲学的意味を考察する。 ・今回のキーワード：不妊治療、卵子/胚提供、代理母・代理懐胎、自己決定と加害、多胎妊娠と減数手術	ビデオ教材視聴、講義	ビデオ教材を視聴して自分の考えを確認する。 講義内容を資料で理解する。
6	・出生前検査：出生前/着床前診断と選択的人工妊娠中絶について考え、障害や生の質の選択、人工妊娠中絶の意味について考える。 ・今回のキーワード：出生前診断・着床前診断、人工妊娠中絶、義務論、帰結主義、「よきサマリア人論法」、センシエンス、「パーソン論」、「我々に似た未来」、生と生の比較、障害の医療モデルと社会モデル、非同一性問題、生殖倫理における非対称性	ビデオ教材視聴、講義	ビデオ教材を視聴して自分の考えを確認する。 講義内容を資料で理解する。
7	・小児脳死移植：脳死/臓器移植について、新法における脳死小児からの臓器摘出の問題を考察する。 ・今回のキーワード：脳死、臓器移植、「臓器の移植に関する法律」、脳死判定、竹内基準、オプト・イン方式、オプト・アウト方式、人物の心理説と動物説	ビデオ教材視聴、講義	ビデオ教材を視聴して自分の考えを確認する。 講義内容を資料で理解する。
8	終講試験	特定テーマについての記述式問題	自らの考えを論理的に表現する。

使用テキスト	教科書は使用せず、ビデオ教材を視聴し、それに関連する事項を解説した教材資料にもとづき講義する。 ビデオ教材：『終わりのない生命の物語～7つのケースで考える生命倫理』（丸善） 『終わりのない生命の物語 2～5つのケースで考える生命倫理』（丸善）
参考書・資料 等	小林亜津子『看護のための生命倫理』（ナカニシヤ出版） 同 『看護が直面する11のモラル・ディレンマ』（ナカニシヤ出版）
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	専門基礎分野 専門分野 統合分野
成績評価の方法	終講試験（記述式）100点
その他	・視聴覚ビデオへの資料にある「質問」を意識しながら自分の考えを確認すること。

受講生への要望等

・講義を聞いて、配布資料の要点をおさえ、口頭での解説を補い、自らの疑問点や意見を書き込むなど、能動的な受講姿勢が望まれる。

授業科目名	社会学		実務経験講師	○
担当教員名	金久保 浩		実務経験	介護福祉士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	7回	
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間	
授業科目の概要	看護の対象者は社会の中の一員である。対象者を理解するにはまずは社会の概念を理解することが必要である。現代の社会情勢、保健情勢を知ることは対象者の理解につながる。また、社会と健康のつながりを知ることにより、看護に生かすことができる。			
授業科目の到達目標	1. 社会と人との関りを理解する。 2. 物事を社会の中で多角的に、時に批判的にみる社会学的な見方ができる。 3. 看護と社会の密接なかかわりと影響力、社会の中での位置づけを理解する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	社会学の基礎概念 社会学的視点とモデル	講義	
2	保健医療と社会学 社会調査の理論と技法	講義	
Ⅲ	健康・病気・ストレスの新しい見方ととらえ方 健康・病気の社会格差	講義	
4	「働き方」「働かせ方」と健康・病気 健康・病気行動と病経験	講義	
5	患者－医療者関係とコミュニケーション 保健医療の専門職	講義	
6	性・ジェンダー・家族と保健医療 地域社会と保健医療	講義	
7	保健医療制度 保健医療の時代的变化の位相 ケアと医療	講義	
8	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 社会学 医学書院
参考書・資料 等	文化人類学
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	専門基礎分野 専門分野Ⅰ 専門分野Ⅱ 統合分野
成績評価の方法	評価配点：終講試験 100 点

その他	
-----	--

受講生への要望等

授業科目名	心理学		実務経験講師	○
担当教員名	草野享子		実務経験	臨床心理士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	心理学各分野の実験・調査・理論を紹介し、その一部を実際に体験することを通して、心理学の基本的な考え方と調査・実験の方法、技術を身につけ、解釈・討論の過程で、現代社会に適応し、生活を営む上で必要となる教養として心理学を十分に理解する。 教育心理学・社会心理学・臨床心理学・発達心理学・医療心理学等の心理学各分野の代表的な実験や調査などを紹介しながら、人間や自分についての理解を深め、人間に対する幅広い視点を育てる。			
授業科目の到達目標	1.行動の科学としての心理学の基礎的特徴を説明できる。 2.心理学の基本的な概念について説明できる。 3.心理学の基本的な研究方法について説明できる。 4.心理学の各領域の特色を理解し説明できる。 5.簡単な心理学的実験を実施し、心理学的解釈を説明できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	心理学とは 学問としての心理学の歴史と理論を概観する。 教科書 第1章 【対人援助 心理学の歴史 研究方法】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
2	感覚と知覚 感覚のしくみとはたらきについて学び、外界を理解する心の働きについて学ぶ。 教科書 第2章 【感覚のしくみとはたらき 知覚の種類】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
3	記憶 記憶と忘却のメカニズムについて理解する。 教科書 第3章 【短期記憶と作業記憶 長期記憶と忘却】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
4	思考・言語 記憶した情報を言語を使用し思考する過程について理解する。 教科書 第4章 A B 【問題解決 推論 言語】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。

5	知能と知能検査	一斉授業	配布資料の空欄を完
---	---------	------	-----------

	知的活動能力の個人差について理解し、医療現場で用いられる測定方法を知る。 教科書 第4章 C 【知能の定義 知能検査 知能障害】	グループワーク	成させる。
6	学習 経験と行動の変化について理解する。 教科書 第5章 【レスポナント条件づけ・オペラント条件づけ 社会的学習】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
7	感情と動悸づけ 様々な感情のメカニズムと動悸づけを促進・減退させるメカニズムについて理解する。 教科書 第6章 【感情の要素 感情のメカニズム 原因帰属理論 学習性無力感】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
8	性格とパーソナリティ 古来から現代に至るまでの性格理論について学び、自己認知の手がかりとする。 教科書 第7章 【類型論 特性論 構造論 性格検査法】 小テスト	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。 小テスト： 記述問題・選択問題
9	社会と集団 対人知覚と対人関係の経験をとおして得られる態度、そこから広がる集団について心理学的に理解する。 教科書 第8章 【社会的認知 態度とコミュニケーション リーダーシップ】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
10	発達 ピアジェ、フロイト、エリクソン、ハヴィガーストの発達理論の概要を理解する。 教科書 第9章 A 【発達の定義 発達理論】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
11	乳幼児期から高齢期の発達 それぞれの発達段階における要点を理解する。 教科書 第9章 B C D 【運動 知的機能 自己 社会性 変化】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
12	心理臨床(心の不適応) 現代における「心の不調」を理解し、学校、職場、医療機関での対応について学ぶ。 教科書 第10章 A B	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。

	【ストレス 心の問題】		
13	心理臨床(心理療法) 様々な心理療法について理解する。 教科書 第10章 C 【精神分析 行動療法 認知行動療法 来談者中心療法】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
14	医療・看護と心理 看護職の対人関係の特徴について学び、看護における対人援助の中心を理解する。 教科書 第11章 【対人援助 患者と家族 看護職の心のケア】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
15	終講試験		選択問題・記述問題

使用テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 心理学 医学書院
参考書・資料 等	同上
この授業科目の前提となる主な科目	論理学 基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	人間関係論 専門分野 統合分野
成績評価の方法	小テスト(25%) 終講時試験(60%) 授業への積極的参加(15%)
その他 受講生への要望等	看護師の資格を得て、職に就くことへの責任感を充分にもって、真摯に学ぶ姿勢で授業に出席することを望みます。

授業科目名	人間関係論		実務経験講師	○
担当教員名	草野享子		実務経験	臨床心理士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	看護師の職場において出会う様々な人間関係の中で、他者の価値観や期待を理解・尊重し、他の専門職と協働でケアを提供していくための人間関係を築いていく態度や能力を養う。 また、現代のコミュニケーションツールの変化に伴う ICT についての理解と討論を通して、その利用方法についても考察する。 さらに心理テスト(YG)を実施し、心理テストの実施方法、解釈について学び、同時に自己の性格を客観的に把握し、他者への理解、他者との関係性の構築へ応用できるようにする。			
授業科目の到達目標	1.人間関係において生じやすい心の動きについて説明できる。 2.人間関係における自己開示の機能について説明できる。 3.良好な人間関係を形成するために必要な自己理解・他者理解の重要性について説明できる。 4.ICT の発達と現代のメディアの変化とそれによる問題点について説明できる。 5.患者、家族、地域それぞれの人間関係を理解し、どのような支援を受けられるか説明できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	人間関係の中の自己と他者 人間関係における自己の有り様と他者との関係についての理論を理解する。 教科書 第1章 【関係的存在 自己認知 対人認知】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
2	対人関係と役割 YG 実施 対人関係の成立とそれを維持・崩壊するメカニズム、対人葛藤について学ぶ。 YG テストを実施し、心理テストの実施方法について学ぶ。 教科書 第2章 【社会的交換 葛藤を生むバイアス 社会的役割】	一斉授業 グループワーク テスト実施	配布資料の空欄を完成させる。 YG テスト実施
3	態度と対人行動 YG 解釈 態度の変化、コミュニケーションについての理解を深め、対人援助に活かす方法について考える。 実施した YG テストの解釈法について学ぶ。 教科書 第3章 【認知的不協和 説得的コミュニケーション 攻撃 援助】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。

4	集団と個人 YG プロフィール作成 集団の特性、目的について学び、問題解決法を理解する。 教科書 第4章 実施した YG テストのプロフィールを作成する。 【集団の凝集性 社会的促進 PM 理論】	一斉授業 グループワーク 実習	配布資料の空欄を完成させる。 YG テストのプロフィールを作成する。
5	コミュニケーションの定義と目標 コミュニケーションの定義を理解し、そのメカニズムを学ぶ。 教科書 第4章 A B 【チャンネル コミュニケーションの障害】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
6	マスコミュニケーションと ICT の発達 ICT の発達によるマスコミュニケーションの変化について考察し、現代社会の問題について理解する。 教科書 第4章 CD 【マスメディアの影響力 インターネット ソーシャルメディア】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
7	小テスト・まとめ 小テストを実施し、ここまでの授業内容に関連するワークを行う。 配布資料に添ってワークを行う。 【自己理解 他者理解】	小テスト グループワーク	選択問題・記述問題・事前に提示された課題のレポート
8	カウンセリングと心理療法 様々なカウンセリング、心理療法のスキルについて学び、グループでロールプレイを行う。 教科書 第6章 【支持的精神療法 クライアント中心療法 看護への応用】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。 グループメンバーと協働してロールプレイを実施する。
9	コーチング コーチングと理論とスキルについて学び、カウンセリング、心理療法との相違点について説明できるようにする。 教科書 第7章 【認める 聴く 質問 フィードバック】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
10	アサーティブ・コミュニケーション 自己表現の方法について理解し、看護への応用について考察する。 教科書 第8章 【アサーティブ】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
11	保健医療チームの人間関係 チーム医療について理解を深め、チームにおけるコミュニケーションについて考察する。 教科書 第9章	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。

	【チーム チームエラー 医療事故 多職種連携】		
12	患者を支える人間関係 患者理解について学び、患者・看護師との相互作用、人間関係について理解を深める。 教科書 第10章 【ペブロウ トラベルビー 患者との人間関係構築】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
13	家族を含めた人間関係 家族システム論を理解し、患者家族を支えるアプローチについて考察する。 教科書 第11章 【家族発達論 家族ストレス対処理論 子ども・高齢者】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
14	地域の人間関係 地域における人間関係の有様を理解し、地域における支援の取り組みについて学ぶ。 教科書 第12章 【ソーシャルサポート ピアサポート ソーシャルキャピタル ノーマライゼーション 障害者差別解消法】	一斉授業 グループワーク	配布資料の空欄を完成させる。
15	終講時試験		選択問題・記述問題 事前に提示した課題 レポートの記述

使用テキスト	系統看護学講座 基礎看護学 人間関係論 医学書院 YG テスト
参考書・資料 等	同上
この授業科目の前提となる主な科目	心理学
この授業科目から発展する主な科目	家族論、カウンセリング論
成績評価の方法	小テスト(25%) 終講時試験(60%) 授業への積極的参加(15%)
その他 受講生への要望等	対人援助職である看護師にとって、自己理解、他者理解、コミュニケーションを生涯、学び続けることは、とても大切なことであることを念頭に置き、積極的に学ぶ姿勢を持つことを望みます。

授業科目名	地域論		実務経験講師	-
担当教員名	首長 正博		実務経験	-
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	7回	
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間	
授業科目の概要	看護の対象者、学生自身は地域の一員として自分らしい生活を送っている。自分らしわを守るために地域とは何か、地域の特性を理解しておく必要がある。また、地域を構成しているものを知ることにより、対象者の健康を維持し、地域の活性化にもつながる。地域の概要を学ぶことにより、地域・在宅看護論を学ぶ足掛かりとなる。			
授業科目の到達目標	1. 地域のとらえ方を理解する。 2. 地域の地理的特性や規模が人々に及ぼす影響を理解する。 3. 地域の産業活動と地域の盛衰関係を学び、健康への影響を理解する。 4. 地域論を学び、地域・自宅看護論に生かすことができる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	地域のとらえ方 地域の定義、言葉の多様な捉え方、地方という表現、 地域と地方の違い、人の活動範囲と地域 地域の地理的特性と人の生活様式への影響	講義	
2	地域の人口規模と人の暮らし 地域の規模と人々の生活形態、地域と生活、都市と郊外、人の生活と居住形態、都市と田舎のイメージを特徴づける要因	講義	
3	地域の経済と産業活動・企業の関係 経済社会と地域経済、産業活動、産業の種類と産業活動の内容 生産プロセス、地域と企業、形態からみた産業活動の地域累計	講義	
4	地域の産業活動と就労 収入獲得と就労の形態、地域内外での生産・販売の形態と雇用 地域での就労機会	講義	
5	地域の産業活動と資金の動き 地域での生産・販売と購入、地域の生産・販売活動と生産プロセスの産業的関連、付加価値間を拡大する、「地域内をお金が回る」の味方の意味と限界、地域経済の存続可能性	講義	
6	人口変動・産業活動と地域の盛衰 地域人口の減少と年齢構成、地域産業の盛衰と地域の賑わいと陰り・疲れ、地域の寂れ・衰退の状況	講義	
7	地方自治体の役割と財政状態 地域の社会基盤整備と地方自治体の役割、日本の税制と地方自治体の	講義	

	財政、歳入税源の主な構成、歳出の主な構成、歳入額の伸び悩み 地方自治体の財政収支バランス		
8	終講試験		

使用テキスト	
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	公衆衛生学 社会福祉論Ⅰ・Ⅱ 医療と経済
成績評価の方法	評価配点:終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	英語	実務経験講師	-
担当教員名	SEI	実務経験	-
開講年度	2025 年度	学 期	後期
年 次	1 年次	授業回数	15 回
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間
授業科目の概要	英語による日常会話の力を培うとともに、医療現場で必要とされる基本的な医学用語に習熟し、患者との円滑なコミュニケーションが図れるようにする。 英語のリスニング力を伸長させるとともに、患者と接する上での教養を深めるために世界各国の世界遺産についての理解を深め、またインターネット上の最新の医学にかかわる話題を英語で読み医学に関わる必要な情報を収集する		
授業科目の到達目標	1.学生は英語を用いて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付ける。 2.学生は看護業務に必要な基本的な英語の医学用語を身に付ける。 3.学生は英語を用いて患者と看護に関わる基礎的なコミュニケーションがとれる。 4.学生は最新の医学に関わる話題に興味を持ち、積極的に情報を収集する態度を身に付ける。		

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	Unit 1	講義 ペアワーク グループワーク	
2	Unit 2	講義 ペアワーク グループワーク	
3	Unit 3	講義 ペアワーク グループワーク	
4	Unit 4	講義 ペアワーク グループワーク	
5	Unit 5	講義 ペアワーク グループワーク	
6	Unit 6	講義 ペアワーク グループワーク	
7	Unit 7	講義 ペアワーク グループワーク	

8	Unit 8	講義 ペアワーク グループワーク	
9	Unit 9	講義 ペアワーク グループワーク	
10	Unit 10	講義 ペアワーク グループワーク	
11	Unit 11	講義 ペアワーク グループワーク	
12	Unit 12	講義 ペアワーク グループワーク	
13	自由会話	講義 ペアワーク グループワーク	
14	自由会話 テスト対策まとめ	講義 ペアワーク グループワーク	
15	終講試験	試験	

使用テキスト	「クリスティーンのやさしい看護英会話」 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	専門分野 統合分野
成績評価の方法	終講試験(口頭)100 点
その他 受講生への要望等	辞書を用意すること。 英会話の練習時は積極的に取り組むこと。 授業で練習したことおよび学習したことを家庭で復習すること。

授業科目名	運動と健康Ⅰ（講義・実技）		実務経験講師	○
担当教員名	比田博隆 ①岡田岳		実務経験	①作業療法士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	看護の対象者の健康を維持するためには運動は必要である。運動が生体への影響と健康のつながりを学び、健康維持のため運動の必要性を理解する。学生自身も実技で運動することにより、運動の必要性を実感し対象者へすすめることができる。			
授業科目の到達目標	1. 運動の必要性を理解する。 2. 運動が生体へ及ぼす影響を学ぶ。 3. 実技で運動することにより、運動の効果を実感できる。 4. 運動の必要性を対象者に説明できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1 ～ 14	運動の必要性 運動と健康の関係 健康増進のための運動 障害者スポーツ 実技 バレーボール等	講義 実技	
15	終講試験	実技	

使用テキスト	なし
参考書・資料 等	なし
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	生化栄養学、人体の構造と機能、疾病と治療 専門分野 統合分野
成績評価の方法	実技評価：出席度
その他 受講生への要望等	ストレッチを十分し、ケガには注意してください。

授業科目名	生化栄養学		実務経験講師	○
担当教員名	羽山潔 ①綱川理絵		実務経験	①管理栄養士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	食物を通して人の健康に直接寄与する学問が栄養学である。代謝の知識を生化学で学び食生活が生活習慣病の予防、健康の保持・増進・疾病からの回復促進に大きく関与していることを理解する。			
授業科目の到達目標	1. 5 代栄養素の体内における代謝と役割、栄養学的意義がわかる。 2. 日本人の食事摂取基準の考え方と利用方法がわかる。 3. 栄養アセスメントの意義と方法がわかる。 4. 健康生活を支える栄養の意義と望ましい食生活がわかる。 5. 疾病の回復のための食事指導の留意点と方法がわかる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	羽山	人間栄養学と看護 糖質の構造と機能 糖質代謝と臨床的意義	講義	
2	羽山	脂質の構造と機能 脂質の代謝と臨床的意義	講義	
3	羽山	タンパク質の構造と機能 タンパク質代謝と臨床的意義	講義	
4	羽山	ビタミン・ミネラルの役割と臨床的意義	講義	
5	羽山	食物の消化と栄養素の吸収・代謝	講義	
6	綱川	エネルギー代謝、食事と食品	講義	
7	綱川	栄養ケア・マネジメント	講義	
8	綱川	栄養状態の評価・判定	講義	
9	綱川	ライフステージと栄養	講義	
10	綱川	ライフステージと栄養	講義	
11	綱川	臨床栄養	講義	
12	綱川	臨床栄養	講義	
13	綱川	臨床栄養	講義	
14	綱川	健康づくりと食生活	講義	
15		終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 生化学 栄養学 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能
この授業科目から発展	疾病と治療 専門分野 統合分野

する主な科目	
成績評価の方法	評価配点:終講試験 100 点(羽山:40 点 綱川:60 点)
その他 受講生への要望等	

授業科目名	人体の構造と機能 総論(総論、運動器、血液系)		実務経験講師	-
担当教員名	山口 俊平		実務経験	-
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	人体の構造と機能は医学体系の中で最も基礎になる領域である。この科目では、正常な人体の構造と機能、また、それらの関連について学習する。更に、人体が生命活動を維持する仕組みについて、系統的に学び、科学的な看護実践の基盤とする。			
授業科目の到達目標	1. 人体の作りと役割を細胞、組織、臓器の概念から理解する。 2. 人体各部の構造と名称を人体の位置・方向から説明理解する。 3. 骨と骨格の役割に関する基本的な知識を理解する。 4. 筋肉や関節の仕組みを理解する。 5. 血液の構造と機能を理解する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	解剖生理学総論(1) 形からみた人体	講義	
2	解剖生理学総論(2) 素材からみた人材	講義	
3	解剖生理学総論(3) 機能からみた人材	講義	
4	骨格系と筋系(1) 骨格とはどのようなものか 骨格の連結 骨格筋	講義	
5	骨格系と筋系(2) 体幹の骨格と筋	講義	
6	骨格系と筋系(3) 上肢の骨格と筋	講義	
7	骨格系と筋系(4) 下肢の骨格と筋	講義	
8	骨格系と筋系(5) 頭頸部の骨格と筋	講義	
9	骨格系と筋系(6) 筋の収縮	講義	
10	骨格系と筋系(7) 上肢、下肢の運動	講義	
11	骨格系と筋系(8) まとめ(練習問題と解説)	講義 演習	
12	血液系(1) 血液の組成と機能、赤血球	講義	

13	血液系(2) 白血球、血小板、血漿タンパク質	講義	
14	血液系(3) 血液の凝固と繊維素溶解、血液型 まとめ(練習問題と解説)	講義 演習	
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 解剖生理学 医学書院
参考書・資料 等	ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	疾病と治療 専門分野 統合分野
成績評価の方法	終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	人体の構造と機能Ⅰ（呼吸器、循環器）		実務経験講師	○
担当教員名	久保川 利哉		実務経験	臨床検査技師・細胞検査士
開講年度	2025 度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回 数	15回	
単 位 数	1単位	単位時 間数	30時間	
授業科目の概要	人体の構造と機能は医学体系の中で最も基礎になる領域である。この科目では、正常な人体の構造と機能、また、それらの関連について学習する。更に、人体が生命活動を維持する仕組みについて、系統的に学び、科学的な看護実践の基盤とする。			
授業科目の到達目標	1. 呼吸器系の構造と機能を理解する。 2. 循環器系の構造と機能を理解する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	呼吸器の構造 呼吸器の構成、上気道	講義	
2	下気道と肺、胸膜・縦郭	講義	
3	呼吸の構造 内呼吸と外呼吸、呼吸器と呼吸運動	講義	
4	呼吸器量、ガス交換とガスの運搬	講義	
5	肺の循環と血流	講義	
6	呼吸運動の調節	講義	
7	呼吸器系の病態生理	講義 演習	呼吸器モデルの組み立て
8	循環器系の構成 心臓の構造	講義	
9	心臓の拍出機能	講義	
10	〃	講義	
11	末梢循環系の構造	講義	
12	〃	講義	
13	血液の循環の調節	講義	
14	リンパとリンパ管	講義 演習	心臓モデルの組み立て
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 解剖生理学 医学書院
参考書・資料 等	ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版

この授業科目の前提となる主な科目	運動と健康Ⅰ・Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	疾病と治療Ⅰ～Ⅵ 専門分野 統合分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	人体の構造と機能Ⅱ（消化器系、腎・泌尿器）		実務経験講師	-
担当教員名	山口 俊平		実務経験	-
開講年度	2025年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	人体の構造と機能は医学体系の中で最も基礎になる領域である。この科目では、正常な人体の構造と機能、また、それらの関連について学習する。更に、人体が生命活動を維持する仕組みについて、系統的に学び、科学的な看護実践の基盤とする。			
授業科目の到達目標	1. 消化器系の構造と機能を理解する。 2. 腎・泌尿器系の構造と機能を理解する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	消化器系(1) 口・咽頭・食道の構造と機能	講義	
2	//	講義	
3	消化器系(2) 腹部消化管の構造と機能	講義	
4	//	講義	
5	消化器系(3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能	講義	
6	//	講義	
7	消化器系(4) 腹膜 消化と吸収	講義	
8	消化器系(5) まとめ(練習問題と解説)	講義 演習	
9	泌尿器系(1) 腎臓・糸球体の構造と機能	講義	
10	泌尿器系(2) 尿細管の構造と機能、尿の生成	講義	
11	//	講義	
12	泌尿器系(3) 排尿路系	講義	
13	泌尿器系(4) 体液の調整	講義	
14	泌尿器系(5) まとめ(練習問題と解説)	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 解剖生理学 医学書院
参考書・資料 等	ぜんぶわかる人体解剖図 武美堂出版
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能総論
この授業科目から発展する主な科目	疾病と治療 専門分野 統合分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 100 点

その他

受講生への要望等

授業科目名	人体の構造と機能Ⅲ(内分泌系)		実務経験講師	-
担当教員名	渡邊 和寿		実務経験	-
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	人体の構造と機能は医学体系の中で最も基礎になる領域である。この科目では、正常な人体の構造と機能、また、それらの関連について学習する。更に、人体が生命活動を維持する仕組みについて、系統的に学び、科学的な看護実践の基盤とする。			
授業科目の到達目標	1. 自律神経、内分泌系の構造と機能を理解する。 2. 内分泌代謝に関わる構造と機能を理解する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	自律神経系、内分泌系 自律神経による調節	講義	
2	内分泌系による調節	講義	
3	//	講義	
4	全身の内分泌腺と内分泌細胞	講義	
5	//	講義	
6	ホルモン分泌の調節	講義	
7	ホルモンによる調節の実際	講義	
8	代謝・栄養とその異常	講義	
9	糖代謝とその異常	講義	
10	脂質代謝とその異常	講義	
11	過栄養と低栄養	講義	
12	骨代謝とその異常	講義	
13	その他の代謝異常	講義	
14	//	講義 演習	神経、内分泌系の組み立て
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 解剖生理学 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	疾病と治療Ⅰ～Ⅵ 専門分野 統合分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 100 点

その他

受講生への要望等

授業科目名	人体の構造と機能Ⅳ(脳神経、感覚器系)		実務経験講師	○
担当教員名	久保川 利哉		実務経験	臨床検査技師・細胞検査士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	人体の構造と機能は医学体系の中で最も基礎になる領域である。この科目では、正常な人体の構造と機能、また、それらの関連について学習する。更に、人体が生命活動を維持する仕組みについて、系統的に学び、科学的な看護実践の基盤とする。			
授業科目の到達目標	1. 脳神経の構造と機能を理解する。 2. 感覚機能(眼、耳、味覚、嗅覚、痛覚)の構造と機能を理解する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	脳神経の構造と機能	講義	
2	脊髄と脳	講義	
3	〃	講義	
4	脊髄神経と脳神経	講義	
5	〃	講義	
6	脳の高次機能	講義	
7	〃	講義	
8	運動機能と下向伝導路	講義	
9	〃	講義 演習	脳神経・脊髄神経の 図示化
10	感覚機能と上行伝導路	講義	
11	眼の構造と視覚	講義	
12	耳の構造と聴覚・平衡覚	講義	
13	味覚と嗅覚	講義	
14	痛み	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 解剖生理学 医学書院
参考書・資料 等	ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版
この授業科目の前提となる主な科目	
この授業科目から発展する主な科目	疾病と治療Ⅰ～Ⅵ 専門分野 統合分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 100 点
その他	

受講生への要望等	
----------	--

授業科目名	人体の構造と機能Ⅴ(生殖器系と発生、生体防御系)		実務経験講師	-
担当教員名	山口俊平		実務経験	-
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	人体の構造と機能は医学体系の中で最も基礎になる領域である。この科目では、正常な人体の構造と機能、また、それらの関連について学習する。更に、人体が生命活動を維持する仕組みについて、系統的に学び、科学的な看護実践の基盤とする。			
授業科目の到達目標	1. 生殖器の構造と機能を理解する。 2.人体の発生過程を理解する。 3. 皮膚の構造と機能、生体防御機構を理解する。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	生殖器系(1)男性生殖器の構造と機能	講義	
2	//	講義	
3	生殖器系(2)女性生殖器の構造と機能	講義	
4	//	講義	
5	生殖器系(3)受精と胎児の発生	講義	
6	生殖器系(4)胎盤と臍帯	講義	
7	生殖器系(5)成長と老化	講義	
8	生殖器系(6)まとめ(練習問題と解説)	講義・演習	
9	生体防御機構(1)皮膚の構造と機能	講義	
10	生体防御機構(2)免疫系	講義	
11	生体防御機構(3)生体防御の関連臓器	講義	
12	生体防御機構(4)代謝と運動、体温とその調節	講義	
13	生体防御機構(5)体液とその調整	講義	
14	生体防御機構(6)まとめ(練習問題と解説)	講義・演習	
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 解剖生理学 医学書院
参考書・資料 等	ぜんぶわかる人体解剖図 成美堂出版
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能総論
この授業科目から発展する主な科目	専門分野 統合分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 100 点
その他	

受講生への要望等	
----------	--

授業科目名	疾病治療総論（病理学・治療総論）		実務経験講師	○
担当教員名	石川 和由		実務経験	医師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	細胞・組織・器官などの形態や生理機能に異常な変化を生じると、症状や徴候といった病的な状態が引き起こされる。病的な状態の原因や成り立ち・進展など疾病の背後にある問題を明らかにする学問である。疾病の理解だけでなく、患者への援助を行う際の根拠となる。看護師が病理学を理解し、知識を持つことは重要である。			
授業科目の到達目標	1. 疾病の原因や成り立ち、進展を理解することができる。 2. 病理学を踏まえて看護援助を考えることができる。			

授業スケジュールと内容 要検討

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	病理学で学ぶこと、細胞・組織の損傷と修復、炎症	講義	
2	免疫、移植と再生医療、感染症	講義	
3	循環障害、代謝障害	講義	
4	老化と死、先天異常と遺伝性疾患	講義	
5	腫瘍	講義	
6	生活習慣と環境因子による生体の障害	講義 GW	生活習慣と 健康障害
7	治療総論 内科編 薬物療法、食事療法、特殊栄養法	講義	
8	運動療法、リハビリテーション、	講義	
9	放射線治療、低侵襲治療法	講義	
10	外科編 手術療法、麻酔の知識	講義	
11	周術期管理と術後合併症の管理、外科的侵襲と生体の反応	講義	
12	炎症と外科的感染症	講義	
13	救急医療	講義	
14	腫瘍の外科治療	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 病理学 医学書院 新体系 看護学全書 別巻 治療法概説 メヂカルフレンド社
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能Ⅰ～Ⅴ
この授業科目から発展する主な科目	専門分野

成績評価の方法	評価配点:終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	微生物学と感染症		実務経験講師	○
担当教員名	佐藤洋隆		実務経験	薬剤師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	微生物は地球規模の元素循環を担っており、生物浄化の役割や食生活を支えている。反面、人間や動物、植物に病気をおこすものもあり、生きることは微生物とうまく付き合うということである。医療の歴史は「病気」を引き起こす「病原微生物」によって作られてきた。そのため、患者はもちろん自分自身を含む医療従事者の安全を守るために、病原微生物のそれぞれの種類や性質を知り、迎え撃つ体の守りの仕組みを理解することは不可欠である。本科目では、看護師に求められる微生物、感染症との付き合い方について知識と理解を深めていく。			
授業科目の到達目標	1. 微生物の種類を理解できる。 2. 微生物が身体に及ぼす影響を理解できる。 3. 感染防御の方法を考え、実践できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	微生物と微生物学、細菌、真菌、原虫、ウイルスの性質	講義	
2	感染と感染症	講義	
3	感染に対する生体防御機構	講義	
4	滅菌と消毒	講義	
5	感染症の検査と診断	講義	
6	感染症の治療	講義	
7	感染症の現状と対策	講義	
8	病原細菌と細菌感染症	講義	
9	//	講義	
10	//	講義 演習	TBL 形式による 実例考察
11	病原ウイルスとウイルス感染症	講義	
12	//	講義 演習	新興再興感染症 TBL
13	//	講義	
14	病原真菌と真菌感染症・病原原虫と原虫感染症	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 微生物学 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提と	人体の構造と機能 総論 I～V

なる主な科目	
この授業科目から発展 する主な科目	専門分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 小テスト 授業前または後に講義範囲の小テストを行い、理解度に応じて加点を行う(随時)。
その他 受講生への要望等	

授業科目名	疾病治療論Ⅰ（運動器系、歯・口腔器系）		実務経験講師	○
担当教員名	①恵川宏敏 ②久保川利哉		実務経験	①医師 ②臨床検査技師・細胞検査士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	看護実践の科学的な根拠となる病気の原因や成り立ちを学習する。運動器系の疾患では特徴的な疾患・症状・検査・治療について学習する。			
授業科目の到達目標	1. 各疾患の病態を理解できる。 2. 各疾患の検査と診断基準、症状と予後を理解できる。 3. 各疾患の基本的な治療を説明できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	恵川	症状とその病態生理	講義	
2	恵川	診断・検査と治療・処置	講義	
3	恵川	骨折	講義	
4	恵川	脱臼、捻挫、打撲	講義	
5	恵川	神経の損傷、筋・腱、先天性疾患	講義	
6	恵川	骨・関節の炎症性疾患	講義	
7	恵川	骨腫瘍、軟部腫瘍	講義	
8	恵川	代謝性骨疾患、腱の疾患	講義	
9	恵川	神経・筋疾患	講義	
10	恵川	上肢および上肢帯の疾患	講義	
11	恵川	脊椎の疾患	講義	
12	恵川	下肢および下肢帯の疾患、ロコモティブシンドロームと運動器不安定症、フレイル、サルコペニア、廃用症候群	講義 演習	ロコモ予防の実演
13	久保川	口腔の構造と機能、検査と治療・処置	講義	
14	久保川	疾患の理解	講義	
15		終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学 運動器・歯・口腔 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、疾病と治療総論 薬理学
この授業科目から発展する主な科目	専門分野、統合分野
成績評価の方法	評価配点：終講試験 運動器系 70 点 歯・口腔器系 30 点

その他 受講生への要望等	
-----------------	--

授業科目名	疾病治療論Ⅱ（呼吸器系、血液系）		実務経験講師	○
担当教員名	折田 誠子		実務経験	看護師
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	看護実践の科学的な根拠となる呼吸器系、血液像血液系それぞれの特徴的な疾患・症状・検査・治療について学習する。			
授業科目の到達目標	1. 各疾患の病態を理解できる。 2. 各疾患の検査と診断基準、症状と予後を理解できる。 3. 各疾患の基本的な治療を理解できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	症状とその病態生理 検査と治療・処置	講義	
2	疾患の理解 感染症、間質性肺疾患	講義	
3	気道疾患、肺循環疾患	講義 演習	
4	呼吸不全、呼吸調節に関する疾患	講義	
5	肺腫瘍	講義	
6	胸膜・縦隔・横隔膜の疾患	講義	
7	肺移植、胸部外傷	講義	症状関連図作成
8	血液系 医療の動向、検査・診断と症候・病態生理	講義	
9	疾患と治療の理解 赤血球系の異常	講義 演習	事前学習の発表
10	白血球系の異常、造血器腫瘍	講義	
11	造血器腫瘍	講義	
12	//	講義	
13	出血性疾患	講義	
14	//	講義	症状関連図作成
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学 呼吸器 血液・造血器 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、薬理学
この授業科目から発展する主な科目	専門分野Ⅰ・Ⅱ 統合分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 呼吸器系 50 点 血液系 50 点

その他 受講生への要望等	
-----------------	--

授業科目名	疾病治療論Ⅲ(循環器、消化器系)		実務経験講師	○
担当教員名	①海老澤勝人 ②久保川 利哉		実務経験	①医師 ②臨床検査技師・細胞検査士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	看護実践の科学的な根拠となる循環器、消化器系の特徴的な疾患・症状、検査、治療について学習する。			
授業科目の到達目標	1. 各疾患の病態を理解できる。 2. 各疾患の検査と診断基準、症状と予後を理解できる。 3. 各疾患の基本的な治療を理解できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	海老澤	心不全の症状とその病態生理	講義	
2	海老澤	疾患の理解 虚血性心疾患①	講義	
3	海老澤	疾患の理解 虚血性心疾患②	講義 演習	事前学習の発表
4	海老澤	弁膜症	講義	
5	海老澤	動脈系、静脈系、リンパ系疾患	講義	
6	海老澤	心電図と不整脈	講義	
7	海老澤	まとめ	講義	
8	久保川	消化器症状と病態生理	講義 演習	事前学習の発表
9	久保川	検査と治療 食道、胃・十二指腸	講義	
10	久保川	腸および腹膜、肛門	講義	
11	久保川	肝臓・胆嚢	講義	
12	久保川	//	講義	
13	久保川	脾臓	講義	
14	久保川	急性腹症、腹部外傷	講義	
15		終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学 循環器・消化器 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、薬理学
この授業科目から発展する主な科目	専門分野

成績評価の方法	評価配点:終講試験 循環器系 50 点、消化器系 50 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	疾病治療論Ⅳ(腎・泌尿器、内分泌系)		実務経験講師	○
担当教員名	①山口 佳志 ②折田 誠子		実務経験	①医師②看護師
開講年度	2025 年度	学 期		
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	腎・泌尿器、内分泌系の特徴的な疾患、症状、検査、治療について学習する。			
授業科目の到達目標	1. 各疾患の病態を理解できる。 2. 各疾患の検査と診断基準、症状と予後を理解できる。 3. 各疾患の基本的な治療を説明できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	山口	腎・泌尿器系の症状と病態生理	講義	
2	山口	検査と治療	講義	
3	山口	疾患の理解 腎不全とAKI・CKD、ネフローゼ症候群	講義 演習	事前学習の発表
4	山口	糸球体腎炎、全身性疾患による腎障害、腎血管性病変	講義	
5	山口	尿路・性器の感染症、尿路の通過障害と機能障害	講義	
6	山口	尿路結石症、尿路・性器の腫瘍	講義	
7	山口	男性不妊症、男性性機能障害、その他の男性生殖器疾患	講義	
8	折田	内分泌系の症状とその病態生理	講義 演習	事前学習の発表
9	折田	検査	講義	
10	折田	疾患の理解 内分泌疾患	講義	
11	折田	//	講義	
12	折田	代謝疾患、尿酸代謝異常	講義	
13	折田	//	講義	
14	折田	//	講義	
15		終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学 腎・泌尿器 内分泌・代謝
参考書・資料 等	ビジュアルノート
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、薬理学
この授業科目から発展する主な科目	専門分野
成績評価の方法	評価配点:終講試験 腎・泌尿器系 50 点 内分泌系 50 点
その他	

受講生への要望等	
----------	--

授業科目名	臨床薬理学		実務経験講師	○
担当教員名	大垣幸正、倉井栄典		実務経験	薬剤師
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	臨床で使用される治療薬の作用機序や薬効、副作用、薬物の体内動態など薬物療法について学習する。			
授業科目の到達目標	1. 薬物治療における主な治療薬の作用機序・特徴について理解できる。 2. 薬物動態および薬物相互作用について理解できる。 3. 適応疾患、有害作用、禁忌などについて理解できる。 4. 取り扱いに注意を要する薬品管理(麻薬・毒薬・劇薬・インスリンなど)について理解できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	倉井	薬理学を学ぶにあたって	講義	
2	倉井	薬理学の基礎知識	講義	
3	倉井	抗感染症薬	講義	
4	倉井	抗がん薬	講義 演習	事例展開
5	倉井	免疫治療薬	講義	
6	倉井	抗アレルギー薬・抗炎症薬	講義	
7	大垣	末梢での神経活動に作用する薬物	講義	
8	大垣	中枢神経系に作用する薬物	講義 演習	事例展開
9	大垣	循環器系に作用する薬物	講義 演習	事例展開
10	大垣	呼吸器・消化器・生殖系に作用する薬物	講義 演習	事例展開
11	大垣	物質代謝に作用する薬物	講義	
12	大垣	皮膚科用薬・眼科用薬、漢方薬	講義	
13	大垣	救急の際に使用される薬物、輸液製剤・輸血剤	講義 演習	事例展開
14	倉井	消毒薬、看護業務に必要な薬の知識	講義	
15		終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 薬理学 医学書院
参考書・資料 等	

この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、疾病と治療
この授業科目から発展する主な科目	専門分野、統合分野
成績評価の方法	評価時期:終講時 評価配点:100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	総合医療論		実務経験講師	○
担当教員名	恵川 宏敏		実務経験	医師
開講年度	2025 度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	7回	
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間	
授業科目の概要	医療を学ぶ一歩として、医療全体を見渡し、すべての教科につながる基礎知識を学び、将来医療を実践する心構えを身に着けるためのヒントが多く含まれた科目になっている。			
授業科目の到達目標	1. 医療の概要を知ることができる。 2. 医療者を目指す心構えを持つことができる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	医学と医療	講義	
2	医療と社会（現在の医療状況）	講義	
3	医療倫理	個人ワーク	
4	保健・医療・介護切れ目ないサポートの実現	講義	
5	DVD 象の背中 6/2・9 のグループワークの説明	視聴	感想文 800 字程度
6	グループワーク		
7	グループワーク		
8	レポート提出		終末期における看護師の役割について

使用テキスト	系統看護学講座 医療概論 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	専門基礎分野、専門分野、統合分野
成績評価の方法	終講試験：レポート 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	社会福祉論Ⅰ（社会保障総論）		実務経験講師	○
担当教員名	金久保浩		実務経験	介護福祉士
開講年度	2025年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	7回	
単 位 数	1単位	単位時間数	15時間	
授業科目の概要	高齢化の急速な進行と年金制度の成熟化、介護保険制度の創設などにより、社会保障社会福祉は誰もがかわりを持つ普遍的な制度として意識されるようになっている。 「病気ではなく、病人をみる」ためには社会保障・社会福祉の理解が必須である。			
授業科目の到達目標	1. 日本の人口動態を学習し、これからの日本社会の在り方を認識することができる。 2. 社会福祉の歴史を学習し、社会的弱者に対する国の方針の移り代わりについて考察することができる。 3. 医療保険制度と介護保険制度について学習し、利用者・家族へ説明できる知識を養うことができる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	日本の人口動態	講義	
2	明治～終戦までの日本の社会福祉 テーマ「終戦前の日本の社会福祉を考える」	講義 演習	グループワーク
3	前回演習続き・グループ発表	演習	グループワーク
4	終戦後～2000 年までの日本の高齢者福祉 高齢者施設種別名の変遷	講義	
5	措置と契約 社会保険と社会扶助	講義	
6	介護保険サービス利用のしくみ	講義	
7	社会福祉論Ⅰまとめ	講義	
8	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 社会保障・社会福祉 医学書院
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	地域・在宅看護論概論
この授業科目から発展する主な科目	医療と経済 関係法規
成績評価の方法	評価配点：終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	基礎看護学概論		実務経験講師	○
担当教員名	今井貴子		実務経験	看護師
開講年度	2025年度	学 期	前期	
年 次	1年次	授業回数	15回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	看護学概論は看護の土台である「看護とは何か」「看護師の職業とは」「看護の対象である人間とはどのような存在なのか」を学ぶ。そして、人をお世話するにあたっての基本となる姿勢・考え方を培っていく。			
授業科目の到達目標	1. 看護の原点と本質、看護の理念について学ぶ。 2. 人間、環境、健康、看護の概念とそれぞれの相互関係について理解する。 3. 現在の看護を取り巻く社会と医療の動向を知る。 4. 看護者としての職業倫理を理解し、自覚と責任を持つ姿勢を培う。 5. 広がる看護の役割、活動領域について考える。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	看護を学ぶにあたって 看護とは 看護の歴史、看護の定義	講義	
2	ナイチンゲールの環境論の詳細、環境論の演習	講義	個人ワーク
3	ナイチンゲールの環境論の詳細、ナイチンゲールの看護教育	講義	
4	ヘンダーソン看護論、看護の基本となるもの、他理論化による看護	講義	個人ワーク
5	他看護理論家の看護論、私たちの生活と医療（総合医療論）	講義	課題 上都賀病院の概要
6	病院見学	講義、見学	上都賀病院
7	看護の対象の理解 人間の心と体を知る 人間の暮らしの理解	講義	
8	国民の健康状態と生活	講義	個人ワーク
9	現在の医療福祉情勢をグループワーク		
10	// 発表		
11	看護の提供者 職業としての看護、看護職の資格・養成制度・就業状況 看護職者の継続教育とキャリア開発	講義	
12	看護の提供のしくみ サービスとしての看護 看護サービスの提供の場、制度と政策、看護サービスの管理 医療安全と医療の質保証	講義	
13	看護における倫理	講義	

	現代社会と倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 看護実践における倫理問題への取り組み 看護職の倫理綱領		
14	//	講義	
15	終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 看護学概論
参考書・資料 等	ナイチンゲールの看護覚え書 西東社 看護の基本となるもの ウァージニア・ヘンダーソン
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	専門分野 統合分野
成績評価配点	終講試験 95 点 グループワークレポート 5 点
その他 受講生への要望等	

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅰ（コミュニケーション・安全）		実務経験講師	○
担当教員名	福田幸子 田波健太		実務経験	看護師
開講年度	2025年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	この科目では、看護活動のあらゆる場面で必要とされる「コミュニケーション」と「安全」に関する学習をする。患者とその家族だけでなく、多職種と連携しながらさまざまな医療機器や薬剤を取り扱う私たちには、医療者としてのコミュニケーションスキルと安全な看護実践のための基本的知識が必須となる。他者との関係性を円滑に進められるコミュニケーション技法を学び、実践に活かしていく。感染とその予防の知識は、基礎看護学方法論の学内演習や臨地実習の前に身につけることが求められる。			
授業科目の到達目標	1. コミュニケーションの基本的知識が理解できる。 2. コミュニケーションの基本的な方法について学び、実践できる。 3. 対象と看護職の安全を守るための方法がわかり、実施できる。 4. 感染成立の条件および院内感染の基本が説明できる。 5. 院内感染予防としての標準予防策を学び、感染防止の技術を習得する。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	福田	コミュニケーションの目的と意義	講義	
2	福田	関係構築のためのコミュニケーションの基本	講義	
3	福田	効果的なコミュニケーションの実際①	講義	
4	福田	効果的なコミュニケーションの実際②	講義	
5	福田	コミュニケーション障害のある人への対応	講義	
6	福田	実習に役立つコミュニケーション①	講義	
7	福田	実習に役立つコミュニケーション②	演習	
8	田波	感染とその予防の基礎知識	講義	
9	田波	標準予防策(スタンダードプリコーション)	講義	
10	田波	感染拡大防止の対応:手洗い	演習	
11	田波	感染経路別予防策	講義	
12	田波	消毒・滅菌法、無菌操作	講義	
13	田波	感染拡大防止の対応:標準予防策、無菌操作	演習	
14	田波	感染性廃棄物の取り扱い、医療施設における感染管理	講義	
15		終講試験		

使用テキスト	系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ(医学書院) 系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ(医学書院)
--------	--

参考書・資料 等	看護がみえる(メディックメディア)①②③
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、微生物学、心理学、基礎看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	人間関係論、基礎看護学方法論Ⅱ～Ⅶ、臨床看護総論、看護過程、実習
成績評価の方法	終講試験(100%) 評価配点 福田 50 点 田波 50 点
その他 受講生への要望等	「コミュニケーションスキル」は看護師に求められる能力の一つである。医療におけるコミュニケーションの重要性やスキルを学び、実習で実践していく。 また、「感染拡大防止の対応」には、身体の機能や細菌・ウイルスに関する知識が求められる。「人体の構造と機能」の科目と関連付けながら臨んで欲しい。

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅱ（環境・活動と休息）		実務経験講師	○
担当教員名	① 佛田清美 ②芳澤有希子 ③大門友加		実務経験	①看護師②理学療法士
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	この科目では「環境」と、「活動と休息」という私たちが何気なく過ごしている日常生活が、健康を阻害され自分の力で快適な生活環境を整えたり、自らの姿勢を変え活動をしたり、休息したりすることが困難になった対象に働きかける援助技術を学習する。原理・原則、科学的根拠に基づいた安全・安楽な環境を調整する技術、活動と休息を支援するための技術を、講義・演習を通して習得していく。			
授業科目の到達目標	1. 療養生活の環境を構成する要素を述べられる。 2. 健康生活における環境、療養者にとっての快適な生活環境について知り、療養環境の調整を実施できる。 3. ボディメカニクスを活用し、安全・安楽を考慮した方法と科学的根拠に基づいたベッドメイキングを実施できる。 4. ボディメカニクスを活用し、安全・安楽を考慮した方法と科学的根拠に基づいた臥床患者のシーツ交換を実施できる。 5. 活動と休息を整える方法を知り、実施できる。 6. 対象の安全な活動を支援する、移動・移動の援助を実施できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	佛田	療養生活の環境 病室の環境のアセスメントと調整	講義	
2	佛田	環境調整技術：援助の実際	講義	
3	佛田	快適な療養環境を調整する方法	講義	
4	佛田	ベッド周囲の環境整備の実際	演習	
5	佛田	ベッドメイキング	演習	
6	佛田	ベッドメイキング	演習	
7	佛田	臥床している患者の環境を整える意義	講義	
8	芳澤・大門	基本的活動の援助：基本的活動の基礎知識、体位 体位変換	講義	
9	芳澤・大門	基本的活動の援助：歩行・移乗・移送 安全確保の基礎知識：転倒・転落防止	講義	
10	芳澤・大門	活動と運動を促す援助：体位変換	演習	
11	芳澤・大門	活動と運動を促す援助：移乗・移送	演習	
12	佛田	睡眠・休息の援助	講義	
13	佛田	臥床患者のシーツ交換	技術試験	技術ノート

14	佛田	臥床患者のシーツ交換	技術試験	技術ノート
15		終講試験		

使用テキスト	系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ(医学書院) 系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ(医学書院)
参考書・資料 等	看護がみえる(メディックメディア)①②③
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、基礎看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ、Ⅲ～Ⅶ、人間関係論、臨床看護総論、看護過程、実習
成績評価の方法	配点 佛田 70 点 (技術試験 10 点) 芳澤・大門 30 点
その他 受講生への要望等	この科目では、看護学生として初めて、みなさんが対象者の基本的ニーズを充足させるための援助技術習得に向けた演習が導入される。講義で学んだことから、自己で復習し、教員からの指導を受け技術ノートを作成することになる。講義で学んだ科学的根拠と演習での実践を統合させ、対象者を支えるものとしての技術と態度を磨いて欲しい。

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅲ(清潔・衣生活)		実務経験講師	○
担当教員名	鴫直人 湯村達也 川岸徹		実務経験	看護師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	この科目では、対象者の基本的ニードである適切な衣類選択と着脱、身体の清潔に関わる援助技術を学ぶ。対象者が看護師に肌を露出する機会となる援助技術となるため、対象者の羞恥心に十分な配慮が求められるが、原理・原則、科学的根拠をふまえて行うスムーズな援助は対象者に爽快感をもたらし、対象者のその人らしさを尊重することにもつながる。原理・原則のみならず、皮膚の生理機能も踏まえた援助について学習していく。			
授業科目の到達目標	1. 皮膚・粘膜の構造と機能を知り、清潔援助の効果と全身への影響を理解する。 2. 清潔援助の方法選択の視点を理解し、それぞれの清潔援助の基礎知識と実際を学ぶ。 3. 病床での衣生活の基礎知識を理解し、安全で安楽な寝衣交換が実施できる。 4. 対象者の羞恥心に配慮し、安全・安楽に留意した全身清拭が実施できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	川岸	清潔の援助の基礎知識 ①皮膚・粘膜の構造と機能、②清潔援助の効果 ③患者の状態に応じた援助の決定と留意点 病床での衣生活の援助 ①援助の基礎知識、②援助の実際	講義	
2	川岸	整容 ①援助の基礎知識、②援助の実際	講義	
3	湯村	清潔の援助の実際 ①入浴・シャワー浴、②特殊浴槽での入浴介助	講義	
4	湯村	全身清拭 ①援助の基礎知識、②援助の実際 陰部洗浄 ①援助の基礎知識、②援助の実際	講義	
5	湯村	全身清拭の実際 寝衣交換の実際	デモ・演習	
6	湯村	全身清拭の実際 寝衣交換の実際	技術試験	
7	湯村	全身清拭の実際 寝衣交換の実際	技術試験	
8	鴫	陰部洗浄の実際	演習	
9	鴫	陰部洗浄の実際	演習	

10	川岸	洗髪 ①援助の基礎知識、②援助の実際	講義	
11	川岸	ケリーパッドを用いた洗髪の実際	演習	
12	川岸	ケリーパッドを用いた洗髪の実際	演習	
13	湯村	手浴・足浴 ①援助の基礎知識、②援助の実際	講義	
14	湯村	手浴・足浴の実際	演習	
15		終講試験		

使用テキスト	系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ(医学書院) 系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ(医学書院)
参考書・資料等	看護がみえる(メディックメディア)①②③
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、基礎看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅶ、臨床看護総論、人間関係論、看護過程、実習
成績評価の方法	配点 湯村50点(技術試験30点) 川岸40点 鴫10点
その他 受講生への要望等	この科目では、対象の身体に直接触れ、影響を及ぼす演習が始まる。自分の身だしなみはもちろん、対象の心身の状況を確認しながら、援助を進めていくための知識や患者の反応を捉える観察、羞恥心に配慮した声掛けなどが援助技術として求められる。他の関連科目で得た知識を関連させながら、講義から得た知識をもとに技術ノートを作成し、援助を実施する準備を整えて欲しい。

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅳ(食事・排泄)		実務経験講師	○
担当教員名	鴫直人 福田幸子		実務経験	看護師
開講年度	2025 年度	学 期	前期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	「食事」は、単に生命を維持するための生理的な意義にとどまらず、食べる喜びや、ヒトとの関係をつなぐといった心理・社会的意義が深い、人間の基本的欲求となっている。そのためこの科目では、栄養状態および摂食能力をアセスメントしながら、対象者の状態に応じた食事介助方法を習得するための演習を行う。また、食後の口腔ケアとして、安全性・安楽性を考慮した援助の方法を選択し、状態に合わせた口腔ケアが実践できるようになるための基礎的知識や援助方法を学習する。 「排泄」は、成長発達の過程で獲得したトイレでの排泄動作に、援助が必要になった場合の援助方法を学習する。そのため、人間にとっての排泄の意義や、生理的なメカニズムを確認し、排泄に影響する因子を理解したうえで、適切な援助方法が選択できるアセスメントの方法も学習する。			
授業科目の到達目標	「食事」1. 人間にとっての食事の意義を説明できる。 2. 栄養や食事の援助に必要なアセスメントについて説明できる。 3. 対象に応じた食事摂取の基本的援助を根拠に基づいて説明できる。 4. 食事に対する援助を、安全・安楽に配慮しながら実施できる。 5. 食事に対する援助が対象に及ぼす心理的影響に気づき、自尊心を傷つけない援助について考えることができる。 6. 口腔ケアの必要性と基本的援助方法について説明できる。 「排泄」1. 人間にとっての排泄の意義、メカニズムを理解できる。 2. 排泄物を観察する視点と、排泄のアセスメント方法が説明できる。 3. 自然排泄への援助方法が根拠を踏まえて説明でき、安全・安楽に配慮しながら実施できる。 4. 排泄に対する援助が対象に及ぼす心理的影響に気づき、自尊心を傷つけない援助について考えることができる。 5. 自然排泄が困難な場合に行う浣腸と摘便を、安全・安楽に配慮しながら実施できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	鴫	食事・栄養の意義	講義	
2	鴫	栄養・代謝のメカニズム 栄養状態のアセスメント	講義	
3	鴫	摂食・嚥下のメカニズム 根拠に基づいた安全・安楽な食事援助	講義	

4	鴫	食事介助の方法 健康障害をもつ患者の食事方法	講義	
5	鴫	非経口的栄養摂取の援助 口腔ケアの意義・方法	講義	
6	鴫	食事介助の実際	演習	
7	鴫	口腔ケアの実際	演習	
8	福田	排泄の意義、排泄器官の機能とメカニズム	講義	
9	福田	尿失禁の種類とそのメカニズム、援助方法 便秘の種類とそのメカニズム、援助方法	講義	
10	福田	自然な排泄を促すための援助方法 (床上排泄、オムツ交換、ポータブルトイレ)	講義	
11	福田	自然な排泄が困難な患者への援助方法 (一時的導尿、持続的導尿、浣腸、摘便)	講義	
12	福田	ストーマケアの援助の基礎知識とその実際	講義	
13	福田	自然な排泄を促すための援助方法 (床上排泄、ポータブルトイレ)	デモ・演習	
14	福田	自然な排泄が困難な患者への援助方法 (一時的導尿、浣腸、摘便)	デモ・演習	
15		終講試験		

使用テキスト	系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ(医学書院) 系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ(医学書院)
参考書・資料 等	看護がみえる(メディックメディア)①②③
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、栄養学、生化学、基礎看護学概論 疾病治療論
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅱ～Ⅶ、臨床看護総論、看護過程、実習 成人看護学方法論、老年看護学方法論
成績評価の方法	配点 鴫 50点 50点
その他 受講生への要望等	この科目を学ぶにあたり、人体の構造と機能が深く関連しているため、授業前に学習をしたうえで授業へ参加して欲しい。原理・原則、科学的根拠を、人体の構造と機能を関連付けて理解し、技術ノートを作成の上、演習を実施することになる。

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅴ(バイタルサイン、フィジカルアセスメント)		実務経験講師	○
担当教員名	湯村達也 古川優子		実務経験	看護師
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	この科目では、対象の身体の状態を捉えるための身体計測、体温・脈拍・呼吸・血圧、意識状態などの測定技術を身につけていく。対象者の状態をより正確に把握するために、原理・原則、科学的根拠を理解することに加え、測定で得られた値が、身体の状態をどのように反映しているのかを把握するための知識が、適切な測定技術の土台となる。 また、バイタルサイン測定で得た値をもとに、心身の状態をより深く的確に把握するためのフィジカルアセスメントの技術も身につけていく。			
授業科目の到達目標	1. バイタルサイン測定の意義を述べることができる。 2. バイタルサイン測定の原理・原則を説明できる。 3. 原理・原則に基づいたバイタルサイン測定が実施できる。 4. バイタルサイン測定で得られた値から、身体の状態をアセスメントできる。 5. フィジカルアセスメントの概要を理解できる。 6. フィジカルアセスメントを実施する際の留意点が説明でき、実施できる。 7. 原理・原則に基づき身体計測が実施できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	古川	ヘルスアセスメントとは 健康歴とセルフケア能力のアセスメント	講義	
2	古川	バイタルサインの観察とアセスメント:体温・意識	講義	
3	古川	バイタルサインの観察とアセスメント:呼吸・脈拍	講義	
4	古川	バイタルサインの観察とアセスメント:血圧測定	講義	
5	古川	バイタルサイン測定の実際	デモ・演習	
6	古川	身体計測とは 身体計測の実際(身長・体重・腹囲)	講義・演習	
7	湯村	フィジカルアセスメントの概要	講義	
8	湯村	全体の外観:フィジカルアセスメントに必要な技術 全身状態・全体象の把握	講義	
9	湯村	フィジカルアセスメント(呼吸器系)	講義	
10	湯村	フィジカルアセスメント(循環器系)	講義	
11	湯村	フィジカルアセスメント(消化器系)	演習	
12	湯村	フィジカルアセスメント(脳神経系)	演習	
13	湯村	フィジカルアセスメントの実際(事例から全身の)	演習	

		フォーカスアセスメント)		
14	古川・湯村	バイタルサイン測定・フィジカルアセスメント	技術試験	
15		終講試験		

使用テキスト	系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ(医学書院) 系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ(医学書院)
参考書・資料 等	看護がみえる③ フィジカルアセスメント(メディックメディア)
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、人間関係論
この授業科目から発展する主な科目	疾病治療論、臨床看護総論、看護過程、看護の統合と実践、臨地実習
成績評価の方法	配点 終講試験:湯村 40点 中村 30点 技術試験:バイタルサイン 20 点 フィジカルアセスメント10点
その他 受講生への要望等	基礎看護学方法論では、対象者の日常生活の援助を学習する科目が多くあるが、日常生活の援助をする前後にも、対象者の健康状態を確認するためにこのバイタルサイン測定の技術や、フィジカルアセスメントの視点が必要不可欠となる。また、バイタルサイン測定やフィジカルアセスメントで得られた結果が、治療効果の判定や薬剤量のコントロールの指標とされることもあり、医療者として求められる役割の大きい学習内容となる。

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅵ(診察・検査・処置)		実務経験講師	○
担当教員名	湯村 達也 鴫 直人		実務経験	看護師
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	看護師は「療養上の世話」または「診療の補助」を行うことを業とされており、この科目では、診療に伴う看護技術を学習する。バイタルサイン測定やフィジカルアセスメントで得られた結果から、体温調整や呼吸・循環を整える必要がある対象に対しての援助技術を学ぶ。医師の指示のもと実施する酸素吸入療法や、創処置、包帯法などの創傷管理技術に加え、検査時の看護の役割などについても学習する。			
授業科目の到達目標	1. 体温・循環を整えるための方法が説明できる。 2. 酸素吸入療法の目的・援助方法とその根拠がわかる。 3. 排痰ケア、吸入療法の目的・援助方法とその根拠がわかる。 4. 包帯法の種類・目的・援助方法とその根拠がわかる。 5. 診察・検査時の看護師の役割を理解し、援助方法が説明できる。 6. 簡易血糖測定、12 誘導心電図の方法や留意点が分かり、安全に実施することができる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	湯村	呼吸を整える技術、援助の基礎知識、酸素療法	講義	P234
2	湯村	呼吸を整える技術：酸素療法	講義・演習	P234
3	湯村	呼吸を整える技術：肺痰ケア、体位ドレナージ、胸腔ドレナージ	講義・演習	P240、256
4	湯村	呼吸を整える技術：吸入、吸引	講義	P260
5	湯村	症状・生体機能管理技術の基礎知識、検体検査	講義	P436
6	湯村	症状・生体機能管理技術、検体検査、生体情報のモニタリング、簡易血糖測定、12 誘導心電図	講義・演習	P436
7	湯村	症状・生体機能管理技術、検体検査、生体情報のモニタリング、簡易血糖測定、12 誘導心電図	講義・演習	P436
8	鴫	創傷管理の基礎知識	講義	P280
9	鴫	創傷処置：包帯法	講義・デモ	P292
10	鴫	体温管理基礎知識、体温管理の技術：罨法	講義	P271
11	鴫	褥瘡の基礎知識、予防	講義	P298
12	鴫	処置：包帯法、褥瘡予防	演習	
13	鴫	診察・検査・処置における技術	講義	P406
14	鴫	末梢循環促進ケア：弾性ストッキング	講義・演習	P274
15		終講試験		

使用テキスト	系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ(医学書院) 系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ(医学書院)
参考書・資料 等	看護がみえる(メディックメディア)①②③
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、臨床看護総論
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅱ～Ⅶ、臨床看護総論、疾病治療論、臨床薬理学、看護過程、実習
成績評価の方法	終講試験(湯村 50 点)(鴫 50 点)
その他 受講生への要望等	この科目では、看護師の役割の中でも、診療の補助としての看護技術を学習する。そのため、人体の構造と機能に加え、疾病論や薬理などの専門基礎分野との関連がより強く求められる科目となる。他科目の復習や確認をしながら、学習内容の理解を深め、患者さんが不安なく処置や検査を受けられるよう、技術を習得して欲しい。

授業科目名	基礎看護学方法論Ⅶ(与薬)		実務経験講師	○
担当教員名	川岸徹 田波健太		実務経験	看護師
開講年度	2025年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	与薬は、医師により患者の治療方針が決定され、医師の指示に基づいて安全かつ確実に与薬されることで効果が得られる。医師の治療を補助する役割の与薬では、的確な薬剤の取り扱いから、確実な投与、投与後の観察により薬効を評価するに至るまで、看護師の担う役割が大きい看護技術である。対象者の抱える健康障害が改善、苦痛が軽減するなど、与薬によって対象者の心身の状況が変化していく様子を見守ることができる一方で、その取扱いや投与方法などによっては、生命にかかわる重大事故を引き起こす可能性もあり、看護師の責務が大きく問われる部分である。この科目では、与薬に必要な知識と技術を習得し、安全に「与薬」が実施できるために必要な能力を養う。			
授業科目の到達目標	1. 薬物の剤形と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を学ことができる。 2. 経口投与、口腔内投与、吸入、点眼、点鼻、経皮的投与、直腸内投与の特徴を理解し、援助の実際を学ぶことができる。 3. 注射の基礎知識を理解することができる。 4. 人体の構造を把握しながら安全・安楽に皮下注射、筋肉注射、点滴静脈内注射を実施することができる。 5. 人体の構造を把握しながら安全・安楽に静脈採血が実施できる。 6. 中心静脈カテーテル留置の介助の方法を知ることができる。 7. 輸血管理の基礎知識を理解し、援助の実際を学ぶことができる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	田波	与薬の基礎知識：薬剤の基本的性質、看護師の役割	講義	
2	田波	経口投与・口腔内与薬・吸入：基礎知識と援助の実際	講義	
3	田波	点眼、点鼻、経皮的与薬、直腸内与薬：基礎知識と援助の実際	講義	
4	川岸	注射：基礎知識、実施上の責任、注射の準備	講義	
5	川岸	注射の実施法：皮下注射、皮内注射、筋肉内注射	講義	
6	川岸	注射の準備(皮下注射・筋肉内注射)	演習	
7	川岸	注射の実施法：静脈内注射、点滴静脈内注射	講義	
8	川岸	点滴静脈内注射の実施方法 バイアルの吸い上げ、ルート確保・接続、固定、 輸液速度の調整	演習	
9	川岸		演習	
10	田波	輸血管理：援助の基礎知識	講義	
11	田波	注射器による採血方法	講義	

12	田波	静脈血採血の実施	演習	
13	田波	採血後の分注	演習	
14	田波	誤薬防止、チューブ類の事故防止 インシデント、アクシデント	講義	
15		終講試験		

使用テキスト	系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅰ(医学書院) 系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ(医学書院)
参考書・資料 等	看護がみえる③ フィジカルアセスメント(メディックメディア)
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、臨床薬理学、人間関係倫理、疾病治療論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅴ
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅵ、臨床看護総論、看護過程、看護の統合と実践、実習
成績評価の方法	配点 田波 55 点 川岸 45 点
その他 受講生への要望等	与薬は、治療的側面でも安楽な療養生活のためにもなくてはならない技術であるが、ヒヤリハットやインシデントの多い、取扱いの際に緊張感が求められる技術となる。そのため、解剖生理と関連付けた中で、確かな知識と技術を身につけて欲しい。また、演習では実際の針を使用することとなる。安全に実施するため、教員の指示によく従って欲しい。

授業科目名	臨床看護総論		実務経験講師	○
担当教員名	佛田清美		実務経験	看護師
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	7 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	15 時間	
授業科目の概要	看護の対象となる人々は、あらゆる年齢層のあらゆる健康段階にある方々であり、臨床看護総論での対象は健康障害を抱える方々である。健康障害や病状のプロセス、健康レベルを理解し、それぞれの状況における対象者のニーズとそれに対する看護ケアを学ぶ。内容としては、主要な症状を示す対象者への看護、治療・処置を受ける対象者への看護を軸にし、また、ME機器の活用についても学んでいく。			
授業科目の到達目標	1. 主要症状をもつ対象の看護の特性と方法がわかる。 2. 治療・処置が対象にもたらす心身の変化を理解し、治療・処置がより効果的で安全・安楽に受けられるための看護の基本について理解できる。 3. ME機器の原理を知り、看護に活用できる。			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	佛田	呼吸に関連する症状を示す対象者への看護 循環に関連する症状を示す対象者への看護	講義	事前課題、事例 シミュレーション P118 ～ 133
2	佛田	消化・排泄機能障害の対象者への看護 活動や休息に関連する症状を示す対象者への看護	講義	事前課題、事例 シミュレーション P134 ～ 174
3	佛田	認知や知覚に関連する症状を示す対象者への看護 コーピングに関連する症状を示す対象者への看護	講義	事前課題、事例 シミュレーション P175 ～ 193
4	佛田	安楽に関連する症状を示す対象者への看護 安全や生体防御機能に関連する症状を示す対象者への看護	講義	事前課題 事例 シミュレーション P194 ～ 218
5	佛田	放射線治療を受ける対象者への看護 化学療法を受ける対象者への看護	講義	P229 ～ 248
6	佛田	手術療法を受ける対象者への看護 集中治療を受ける対象者への看護 救急治療の看護	講義	P249 ～ 266
7	佛田	医療機器の原理と実際 (星医療酸器に NPPV を依頼予定) 人工臓器装着/臓器移植を必要とする患者の看護	講義	P314 ～ 345
8		終講試験		

使用テキスト	系統・専門分野Ⅰ 基礎看護学④ 臨床看護総論(医学書院)
参考書・資料 等	
この授業科目の前提となる主な科目	人体の構造と機能、疾病治療論、基礎看護学方法論Ⅰ～Ⅵ、
この授業科目から発展する主な科目	基礎看護学方法論Ⅶ、成人看護学、老年看護学、看護の統合と実践、実習
成績評価の方法	配点 佛田 100 点
その他 受講生への要望等	これまで基礎看護学で学習してきた知識を、健康障害を抱える方々へ提供するためのより実践的な科目で、今後の専門分野Ⅱで学ぶ各看護学の展開につながる授業内容である。 「人体の構造と機能」とも深く関連する科目となるため、授業前に「人体の構造と機能」に関する知識を確認しながら臨んで欲しい。

授業科目名	地域・在宅看護論 概論		実務経験講師	○
担当教員名	①佛田清美 ②高森知保 ③金久保浩		実務経験	①②看護師③介護福祉士
開講年度	2025 年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	少子高齢化に伴い、地域包括ケアシステムの構築や適切な医療提供体制の設備が必要とされ、療養の場は医療機関のみではなく在宅や施設等多様な場に拡大しています。 地域・在宅における看護は、人々が地域において、自分なりの健康で、自分の望む暮らしを送ることができ、また病気になっても住み慣れた地域で暮らすことができるという、対象者や家族の望みや願いの実現を支えるものです。本科目では、地域で生活する人々とその家族を理解し、地域における様々な場で生活と健康を支援するための看護の基礎を理解することを目指します。			
授業科目の到達目標	1 在宅看護の目的・対象の特徴が理解できる 2 地域で生活する人を理解し、在宅療養者とその家族が生活するための支援方法を述べる ことができる。 3 在宅療養するための制度が理解できる 4 地域における看護職の活動・役割について述べる ことができる			

授業スケジュールと内容

回	担当教員	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	金久保浩	生活の理解① テーマ「私たちが考える自立した生活」 4～5 人8グループ	演習	ワークシート作成 グループ発表
2	金久保浩	生活の理解② 自立生活の3要素 自立生活の身体的・心理的・社会的理解 看護・介護における自立	講義	
3	金久保浩	家族の理解① テーマ「昔の家族と今の家族の違い」 4～5 人8グループ	演習	ワークシート作成 グループ発表
4	金久保浩	家族の理解② 家族の定義 世帯構成の変化	講義	
5	金久保浩	地域社会の理解① 地域社会の成り立ち(コミュニティーとアソシエーション、伝統的支配、カリスマ的支配、法的支配等)	講義	

6	金久保浩	地域社会の理解② 日本の地域福祉の歴史 地域包括ケアシステム 重層的支援体制整備事業	講義	
7	金久保浩	中間まとめ 地域包括ケアシステムの実現に向けて	講義	
8	佛田	地域における暮らしを支える看護 暮らしを支える地域・在宅看護 暮らしの環境を支える看護 広がる看護の対象と提供方法 地域における家族への看護	講義 演習	
9	佛田	地域における暮らしを支える看護 地域におけるライフステージに応じた看護 地域での区足におけるリスクの理解 地域での暮らしにおける災害対策	講義	
10	佛田	地域・在宅看護実践の場と連携 さまざまな場・職種で支える地域での暮らし おもな地域・在宅看護論の実践の場 地域・在宅看護における多職種連携	講義	
11	佛田	多職種との連携・協働を考える ワークシート～個人・グループワーク～	演習	ワークシート提出
12	高森	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 介護保険・医療保険制度 地域・在宅看護にかかわる医療提供制度	講義	
13	高森	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 訪問看護の制度 地域保健にかかわる医療提供制度	講義	
14	高森	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用 高齢者に関する法制度 障害者・難病に関する法制度 公費負担医療に関する法制度 権利保障に関連する制度	講義	
15		終講試験		

使用テキスト	1. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の基盤 地域・在宅看護論 1/医学書院
--------	---

	2. 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論の実践 地域・在宅看護論 2/医学書院 3. ナーシング・グラフィカ 地域・在宅看護論① 地域療養を支えるケア/メディカ出版
この授業科目の前提となる主な科目	人間関係論Ⅰ～Ⅱ、関係法規、社会福祉、公衆衛生学、基礎看護学概論、基礎看護学臨床看護総論、成人看護学概論、老年看護学概論、母性看護学概論、小児看護学概論、精神看護学概論、成人看護学方法論Ⅰ～Ⅳ、老年看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、小児看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、母性看護学方法論Ⅰ～Ⅱ、精神看護学方法論Ⅰ～Ⅱ
この授業科目から発展する主な科目	在宅看護論方法論Ⅰ～Ⅴ、看護の統合Ⅰ～Ⅲ、臨地実習、在宅看護論実習、看護の統合実習
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：終講試験 金久保(50点) 佛田(15点) 高森(35点)
その他 受講生への要望等	・予習としてテキストを読んでから授業に臨んで下さい。 ・ワークシートは評価の対象となるため、やむを得ない事情を除いて提出期日を厳守して下さい。提出期日に遅れた場合、追評価(8割)となります。 ・尚、本科目の単位修得は、在宅看護論実習の履修前提条件となります。

授業科目名	成人看護学概論		実務経験講師	○
担当教員名	田波健太		実務経験	看護師
開講年度	2025 年	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	現代は様々な環境が大きな変動を迎えている。その社会の中で成人各期の身体機能の特徴や心理・社会的特性かつ役割を多角的に学ぶ。社会の変動に伴い健康問題も複雑・多様化している。ヘルスプロモーション、疾病予防、疾病や障害からの早期回復を支援する看護を学ぶ。			
授業科目の到達目標	1. 成人各期の成長・発達と発達課題かつ特徴を理解できる。 2. 生活習慣やライフスタイルと健康問題との関連が理解できる。 3. 成人学習の特徴を活用した健康行動促進のための看護アプローチ法がわかる。 4. 様々な健康段階に応じた成人への看護を導き出すことができる。			

授業スケジュールと内容

回	担当	内 容	授業方法	課題／小テスト
1		成人看護学概論の学習目的と理由	講義	
2		成人看護の対象である「成人」とは	講義	
3		グループワーク : 青年期、向年期、壮年期の特徴	講義	
4		成人を取り巻く生活と環境	講義	
5		成人の健康動向と保健、医療、 人口構成、生活習慣病、労働災害、セクシュアリティ、 障害者、死因と死亡率	講義	
6		成人期の健康障害へ関わる際の基本的な視点 意思決定権、危機状況への適応、自己効力感、エンパワメント、学習、ヘルスプロモーション	講義	
7		成人期のストレスに関連する健康問題と対処法 国家試験の傾向	講義	
8		急性期にある患者の特徴と看護 身体的・精神的・社会的特徴	講義	
9		回復期にある患者の特徴と看護 身体的・精神的・社会的特徴	講義	
10		回復期・リハビリテーション期にある患者の特徴と看護 身体的・精神的・社会的特徴	講義	
11		慢性期にある患者の特徴 身体的・精神的・社会的特徴	講義	
12		慢性期にある看護の基礎知識	講義	

		患者と家族に必要な看護について		
13		終末期にある患者の特徴 身体的・精神的・社会的特徴	講義	
14		終末期にある看護の基礎知識 患者と家族に必要な看護について	講義	
15		終講試験		

使用テキスト	系統看護学講座 成人看護学総論 医学書院
参考書・資料 等	授業資料
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野 専門基礎分野
この授業科目から発展する主な科目	専門分野
成績評価の	終講試験
その他 受講生への要望等	要点をまとめた授業資料を毎回配布します。授業資料をもって授業に臨んでください。テキストは理解を深めるために各自自由に活用して下さい。

授業科目名	老年看護学 概論		実務経験講師	○
担当教員名	①小堀 智代 ②金久保 浩		実務経験	①看護師②介護福祉士
開講年度	2025年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	加齢に伴う身体的、心理的、社会的側面の変化と社会状況の変化から高齢者を理解し、高齢者の自立と権利を守るための社会制度について学ぶことで、老年看護のあり方について考えます。			
授業科目の到達目標	1. 高齢者の統計的特徴を列挙できる。 2. 高齢者の身体的、心理的、社会的側面の変化を説明できる。 3. 高齢者の権利擁護について自らの考えを述べるができる。 4. 老年看護の基本的考え方と課題を説明できる。 5. 多様な生活の場で展開する高齢者への看護を列挙できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	老年期の理解1 講義：加齢と老化、高齢者の定義、老年期の発達課題 使用テキスト： ①第1章 B「老いる」ということ①加齢と老化、C 老いを生きるということ、①高齢者の定義、③発達と成熟	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
2	老年期の理解2 講義：人口学的指標からの老年期 使用テキスト： ①第2章 A 超高齢社会の統計的輪郭①超高齢社会の現状 【キーワード】高齢化率・平均寿命・健康寿命	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
3	老年期の理解3 講義：健康指標から老年期 使用テキスト： ①第2章 A 超高齢社会の統計的輪郭③高齢者の健康状態、④高齢者の死亡 【キーワード】受療の状況・受療の高い疾患・高齢者の死因の動向	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
4	老年期の理解4 講義：生活の視点から老年期 使用テキスト： ①第2章 A 超高齢社会の統計的輪郭②高齢者と家族、⑤高齢者の暮らし 【キーワード】世帯構成の変化・経済状態・就業・社会活動	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。 これまでの講義をとおして関心を持った項目についてレポートにまとめ提出。
5	加齢に伴う変化 1	講義	講義内容に沿ったテキス

	講義：身体的側面の変化 使用テキスト： ①第４章 B 身体の加齢変化とアセスメント		トの項目を精読する。
6	加齢に伴う変化 2 講義：身体的側面の変化 使用テキスト： ①第４章 B 身体の加齢変化とアセスメント	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
7	加齢に伴う変化 3 講義：心理的、社会的側面の変化 使用テキスト： ①第１章 B「老いる」ということ③加齢に伴う心理的側面の変化、第５章 H 社会参加 【キーワード】流動性知能と結晶性知能・社会および家庭における役割変化・社会参加	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
8	加齢に伴う変化 高齢者疑似体験	演習	加齢に伴う変化について復習したうえで演習に臨む。高齢者体験をとおしての振り返りレポートを記入し提出
9	高齢者を支える保健医療福祉制度 1 講義：保健医療福祉制度の変遷、高齢者医療確保法、介護保険制度 使用テキスト： ①第２章 B 高齢社会における保健医療福祉の動向①高齢者に関わる保健医療福祉システムの構築	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
10	高齢者を支える保健医療福祉制度 2 講義：介護保険制度 使用テキスト： ①第２章 B 高齢社会における保健医療福祉の動向①高齢者に関わる保健医療福祉システムの構築	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
11	高齢者の権利擁護 1 講義：高齢者虐待 使用テキスト： ①第２章 C 高齢者の権利擁護①高齢者に対するスティグマと差別・②高齢者虐待 【キーワード】エイジズム・アドボカシー・高齢者虐待の実態と特徴・高齢者虐待防止法	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
12	高齢者の権利擁護 2 講義：身体拘束、成年後見制度 使用テキスト：	講義 事例検討 グループワ	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。 事例に関して権利擁護の視点からレポートをま

	①第 2 章 C 高齢者の権利擁護③身体拘束、④権利擁護のための制度 【キーワード】身体拘束例外 3 原則・法定後見制度・任意後見制度	ワーク クラス別	とめ提出
13	保健医療福祉施設における看護 講義：高齢者の疾患の特徴、健康段階と場に応じた老年看護の機能 と役割、家族による介護の状況 使用テキスト： ①第 1 章 B「老いる」ということ②加齢に伴う身体的側面の変化、 第 7 章 D リハビリテーションを受ける高齢者の看護・E 入院治療を受ける高齢者の看護、第 9 章 B 保健医療福祉施設および居住施設における看護、第 9 章 C 治療・介護を必要とする高齢者を含む家族の看護 【キーワード】恒常性と 4 つの力・疾病をめぐる特徴・日常生活上介護が必要となった原因・介護家族の動向	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
14	老年看護の基本 講義：老年看護の変遷、老年看護における理論・概念の活用 使用テキスト： ①第 3 章 老年看護のなりたち、第 2 章 A 超高齢社会の統計的輪郭 ②高齢者を支える多職種連携と看護活動の多様化 【キーワード】老年看護の基本・高齢者のための国連 3 原則	講義	講義内容に沿ったテキストの項目を精読する。
15	終講試験		

使用テキスト	①系統看護学講座専門Ⅱ老年看護学/医学書院
参考書・資料 等	国民衛生の動向/厚生労働統計協会 系統看護学講座専門基礎解剖生理学/医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学概論・人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ
この授業科目から発展する主な科目	老年看護学方法論Ⅰ・老年看護学方法論Ⅱ・老年看護学方法論Ⅲ・老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ
成績評価の方法	評価時期：終講時 評価対象および配分：試験(85 点)、課題提出(15 点) レポート課題については指定された期日に提出されない場合、0 点となります。
その他 受講生への要望等	高齢者の理解に基づく老年看護の基本を学ぶことで、高齢者や高齢者をとりまく現状に興味・関心がもてるようになることを期待します。

授業科目名	小児看護学概論		実務経験講師	○
担当教員名	古川優子		実務経験	看護師
開講年度	2025年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30時間	
授業科目の概要	小児看護の対象である子どもについての理解を深めるために、子どもの権利や児童福祉・母子保健の変遷、並びに小児各期の成長・発達の特徴について学んでいきます。 また、子どもを社会や家族の中の存在として位置づけ、子どもを取り巻く環境や現代の家族の状況についての理解を深め、小児看護における行動指針を養います。			
授業科目の到達目標	1.子どもの権利の変遷について述べることができる。 2.小児を取り巻く環境が小児にどのような影響を及ぼすか考えることができる。 3.小児各期における成長・発達の特徴について述べることができる。 4.小児各期における基本的な生活習慣確立の過程、遊び・学習の特徴について述べることができる。 5.諸統計からみた子どもの事故とその予防策について説明することができる。			

授業スケジュールと内容

回	担当	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	古川	子どもの理解、子どもの人権と看護 ・小児の範囲と区分 ・子どもの特徴 ・子どもの権利 ・小児看護における権利、倫理	講義	
2	古川	小児に関する法律と政策 ・児童福祉法 母子保健法など ・医療費の支援	講義	ワーク①
3	古川	子どもと家族を取り巻く環境 ・家族とは ・現代家族の特徴 ・子どもと家族 ・子どもと社会	講義	
4	古川	小児と家族の諸統計 ・出生と家族 ・子どもの死亡	講義	
5	古川	特別な状況にある子どもと家族 ・障害を持つ子どもと家族 ・災害を受けた子どもと家族への看護	講義	
6	古川	子どもの成長・発達 ・成長・発達とは ・成長・発達を理解する意味 原則 ・成長・発達の評価方法	講義	ワーク②
7	古川	発表準備(調べ学習)	GW	
8	古川	発表準備(調べ学習)	GW	
9	古川	新生児・乳児期の成長・発達① ・グループ発表 ・解説講義	発表 講義	ワーク③
10	古川	新生児・乳児期の成長・発達②	発表	

		・グループ発表 ・解説講義	講義	
11	古川	幼児期前期の成長・発達 ・グループ発表 ・解説講義	発表 講義	ワーク④
12	古川	幼児期後期の成長・発達 ・グループ発表 ・解説講義	発表 講義	
13	古川	学童期・思春期の成長・発達 ・グループ発表 ・解説講義	発表 講義	
14	古川	小児各期の成長・発達 まとめ	講義	ワーク⑤
15		終講試験	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論・小児看護学総論 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学概論 心理学 倫理学
この授業科目から発展する主な科目	小児看護学方法論Ⅰ～Ⅲ 母性看護学方法論Ⅲ 小児看護学実習
成績評価の方法	終講試験 80点 レポート課題10点 グループワーク10点
その他 受講生への要望等	1.小児看護の基礎となる科目であると同時に、成長発達や統計、法律など暗記することが多い科目でもあります。学習したことが今後の小児実習や国家試験につながっていきます。復習して確実な知識として定着させて下さい。 2. グループごとに担当年齢を決めて調べ学習を行い、それを発表してもらいます。グループで協力し、一人一人が積極的に取り組んでください。 3. ワーク①～⑤をレポート課題としています。それぞれ期日内にワークに取り組み、遅れないように提出してください。

授業科目名	母性看護学概論		実務経験講師	○
担当教員名	齋川洋子		実務経験	看護師
開講年度	2025年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	母性看護学では、女性の一生を通じた母性の健康の保持・増進を目指した看護を基盤として、次世代の健全育成を目指す看護について学習します。講義では、リプロダクティブヘルス/ライツの観点から、身体的、心理・社会的、文化的側面に着目し、女性の健康課題と看護ニーズを歴史的変遷から現在までを概観し、母性看護の役割と機能、活動の場について学びます。			
授業科目の到達目標	1. 母性看護における母性の捉え方が述べられる。 2. 人間の性を示すセクシュアリティにつて述べられる。 3. リプロダクティブヘルス/ライツについて理解し、母性看護を含む今後のヘルス ケアの課題について考察する。 4. ヘルспロモーションの考え方が述べられる。 5. 母性看護の対象、目的、目標が述べられる。 6. 自己の母性観・父性観が深まる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	母性看護学の概念 ・母性・父性とは ・母性・父性の役割	講義	
2	セクシュアリティの理解① ・セクシュアリティとは ・セクシュアリティの課題	講義	
3	セクシュアリティの理解② ・リプロダクティブヘルス/ライツ ・リプロダクティブヘルス/ライツの課題	講義	
4	ヘルспロモーション ・ヘルспロモーションの活動と看護技術	講義	
5	母性看護のあり方① ・母性看護の理念	講義	
6	母性看護のあり方② ・母性看護の課題	講義	
7	母性看護における倫理 ・生命倫理、倫理的意決定	講義	
8	母性看護における安全・事故防止	講義	

9	母性看護の歴史的変遷と現状①	講義	
10	母性看護の歴史的変遷と現状②	講義	
11	母性看護の対象を取り巻く環境	講義	
12	母性看護の対象理解① ・女性のライフサイクルにおける形態機能の変化	講義	
13	母性看護の対象理解② ・女性のライフサイクルとその家族	講義	
14	母性看護の対象理解③ ・母性看護の発達・成熟・継承	講義	
15	終講試験	試験	

使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論、各論 医学書院
参考書・資料 等	国民衛生の動向
この授業科目の前提となる主な科目	基礎看護学概論 基礎看護学方法論 関係法規 公衆衛生 栄養学 人体の構造と機能
この授業科目から発展する主な科目	母性看護学方法論Ⅰ～Ⅲ 母性看護学実習
成績評価の方法	終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	母性・父性に関心を持ち授業に参加してください。

授業科目名	精神看護学概論		実務経験講師	○
担当教員名	福田幸子		実務経験	看護師
開講年度	2025年度	学 期	後期	
年 次	1 年次	授業回数	15 回	
単 位 数	1 単位	単位時間数	30 時間	
授業科目の概要	精神障害者数は近年急増しており、2020 年時点で 614.8 万人となっている。精神障害者がどのような人々なのかを知る機会がないまま、マスコミの精神障害者による事件報道をうのみにしてしまっているのではないのでしょうか。知識不足や間違った認識は、偏見に苦しむ人々を生み出してしまいます。精神看護学概論の授業では、精神障害を持つ人について正しい知識と理解を深め、誰にでも起こりえる出来事として捉えられるよう学んでいきます。具体的には、精神の健康と維持・増進に向けた精神保健についてや精神医療の変遷や法制度、地域社会の中で精神保健医療福祉におけるチームが精神障害をもつ人の人権を擁護しながら社会復帰に向けてどのような支援と連携を行っているのかなど基礎的知識と看護の役割について学んでいきます。			
授業科目の到達目標	1. 精神の健康について理解できる。 2. 精神医療の現状と問題点について述べられる。 3. 精神医療の歴史や法・制度の変遷について理解できる。 4. 精神医療において起こりやすい倫理的問題について述べられる。 5. 退院促進や地域での生活支援に向けて精神医療のリハビリテーションの意味を理解し、精神看護における多職種連携について理解できる。 6. 精神看護の目的及び看護の役割について理解できる。			

授業スケジュールと内容

回	内 容	授業方法	課題／小テスト
1	<u>精神看護学を学ぶ必要性</u> 現代社会における精神保健と看護ニーズの高まりの背景や精神看護の基本的な考え方	講義	
2	<u>精神の捉え方</u> 精神の構造と働き、人格の発達に関する代表的な理論	講義	
3	<u>精神の健康とは</u> 精神の健康とは何か、ストレスおよび精神の健康における危機とその予防と回復を支えるとはどういうことか	講義	
4	<u>暮らしの場と精神の健康</u> 学校・職場における精神保健と精神看護	講義	
5	<u>現代社会と精神の健康</u> 現代社会特有の精神保健上の問題の実情と対策	講義	
6	<u>家族とその支援</u> 精神障害者を身内にもつ家族の置かれている現状と支援	講義	

7	<u>精神医療の変遷</u> 精神医療の歴史や流れ	講義	
8	<u>精神障害と法制度</u> 精神障害をもつ人を守る法律や制度	講義	
9	<u>看護倫理と人権擁護</u> 患者の権利や精神障害をもつ人の処遇をめぐる問題	講義 GW	
10	<u>精神科で出逢う人々①</u> 「精神障害をもつ人」とは	講義	
11	<u>精神科で出逢う人々②</u> 「精神障害をもつ人」とは	講義	
12	<u>地域における生活支援の方法</u> 精神障害をもつ人の地域生活を支える社会制度や基盤となる考え方	講義	
13	<u>ピアサポートとは</u> ピアサポーターのお話を聴講し、ピアサポートについて学ぶ	講義	
14	<u>日本の精神看護の発展</u> リエゾン精神看護、司法精神医療、災害時の精神看護 <u>ストレスマネジメント</u> 精神科で働く看護師のストレスの特徴とストレスマネジメントの方法	講義	
15	終講試験	試験	

使用テキスト	専門分野 精神看護学① 精神看護の基礎 医学書院 専門分野 精神看護学② 精神看護の展開 医学書院
この授業科目の前提となる主な科目	基礎分野全般、基礎看護学概論
この授業科目から発展する主な科目	精神看護学方法論Ⅰ 精神看護学方法論Ⅱ 精神看護学方法論Ⅲ 精神看護学実習 在宅看護論実習 看護の統合と実践実習
成績評価の方法	終講試験 100 点
その他 受講生への要望等	精神障害を持つ人について正しい知識と理解を深め、誰にでも起こりえる出来事として捉えられるよう一緒に学んでいきましょう。